瀬峰町文化財調査報告書第３集

がんげつ遺跡

第２次発掘調査報告書

昭和55年３月

瀬峰町教育委員会

がんげつ遺跡

第２次発掘調査報告書

発　刊　の　辞

この度，瀬峰町文化財調査報告書第３集ができた。

これは，昭和52年２月刊行の第１集「がんげつ遺跡」，昭和54年3月刊行の第２集「長者原Ⅱ遺跡」に続くものである。

近年，各地において，埋蔵文化財の発掘調査が盛んになってきたが，本町においても町教育委員会が，極めて多忙の中を意欲的に取り組んでおられ，その御努力に対して心から敬意を表しているところである。

しかし，なんといっても，その活力となっているのは，民間の方々の深い御理解と御協力によるものである。

この第３集の「がんげつ遺跡」の調査も，町教育委員会独自の事業として進められたが，発掘調査に当っては，日本考古学協会員の佐藤信行先生を始め，築館女子高校の金野先生，古川工業高校の三宅，鴇田，桜井の各先生，また宮城県教育庁文化財保護課の諸先生等の御指導，御協力によるものである。勿論，この作業に参加された多くの町民の方々の御協力も忘れることはできないし，何よりも地権者，佐藤司氏の深い御理解に対し，心から感謝を申しあげるものである。

「がんげつ遺跡」については，かねてから注目されていたところであり，昭和50年の第１次調査のときも，貴重な遺構，遺物が発見されているが，昭和52年11月に発掘された第２次調査にも，県内では数少ない，米，あわ，ひえ等の炭化物が発見され，この地方の古代史解明への重要な資料となったとも聞いている。

こうした遺跡が，附近にはまだまだ存在していて，これらが上富丘陵遺跡群を形成しているが，これらの調査を終了するまでには，大変な時間と経費がかかるだろう。現在約35,000㎡にわたる大境山遺跡の大調査が，瀬峰町の単独事業として行なわれているが，その報告書も，いずれそのうちに刊行されることであろう。一つ一つの努力の積み重ねが，瀬峰町の歴史の全貌に近づいてゆくことを期待してやまないものである。

昭和55年３月

瀬峰町長　加　藤　光　明

発刊によせて

1980年代を迎え社会の変転はめまぐるしく続いています。国際情勢は予断を許さない緊張関係が頻発し，経済面では石油問題以来の不安を国内，及び家庭生活内にみなぎらせています。一方，この様な状況にありながらも，薫り高い芸術文化への志向が求められ，その一つとして古い時代への探究も続けられる傾向が強まりつつあります。

わが町においても，昭和50年第１次「がんげつ遺跡」の調査に続いて，昭和52年第２次「がんげつ遺跡」の調査を実施しました。今回発掘調査を実施した場所は，第１次調査地域東方200ｍの地点にあり，共に相関連する遺跡として文化財関係者の関心の的になっていたところであります。

発掘調査は地権者佐藤司氏の承諾を得て，昭和52年11月２日から11月11日にかけて瀬峰町教育委員会(担当：片倉社会教育主事)が主体となって行なったものであります。

調査を行なうに際しては，調査の指導に当たられた諸先生方，調査協力員の方々のご支援を頂きました。ここに衷心から敬意と感謝を申し上げます。

検出された遺構は平安時代のものと考えられ，出土遺物も多く，その成果については本報告書の通り，まことに意義深いものと思われています。

最後にこの報告の編集にあたって種々の労をとられた，調査担当者佐藤信行氏，調査員佐々木尚見氏，それに特別寄稿をお寄せ頂いた諸先生に心から敬意を表し，本書が文化財保護のため大きく役立つことができれば幸いです。

昭和55年３月

瀬峰町教育委員会教育長　手島正夫

例　　言

1．本書は宮城県栗原郡瀬峰町大里字富岩石（がんげつ）地内の水田造成工事に伴なう発掘調査報告書である。

2．遺　跡　名：がんげつ遺跡（宮城県遺跡登載番号：46017）
　所　在　地：宮城県栗原郡瀬峰町大里字富岩石12－13（通称：中山）
　調査期間：昭和52年11月2日～11月11日
　調査面積：約108㎡

3．調査主体：瀬峰町教育委員会
　調査担当者：日本考古学協会員　佐藤信行
　調　査　員：宮城県築館女子高等学校教諭　金野　正
　　宮城県古川工業高等学校教諭　三宅宗議
　　宮城県古川工業高等学校教諭　鴇田勝彦
　　宮城県古川工業高等学校教諭　桜井幸喜
　　瀬峰町文化財保護委員　佐々木尚見
　調査協力員：伊藤経四郎，小野寺松雄，加藤栄六，笹川トミ子，佐々木誠，鈴木運作，二上一男，二上鎮雄，若松金男，宮城県古川工業高等学校生徒（鈴木克哉，大場利光，今野太一，佐々木文彦，富久世公浩，堀田幸治，森伸次，山村孝幸）
　調査指導：宮城県教育庁文化財保護課技師　丹羽　茂
　地権者：佐藤　司

4．各整理作業は次の諸機関，各氏の協力，参加を得て実施した。

土器	東北学院大学学生	主浜光朗
	東北学院大学学生	赤沢靖章
	調査員	佐々木尚見
	調査担当者	佐藤信行
遺構	泉市教育委員会	熊谷幹男
	調査員	桜井幸喜
鉄器の保存処理	東北歴史資料館	村山斌夫
	東北歴史資料館	藤沼邦彦
鉄滓の分析	東北金属工業株式会社	
植物遺体	名古屋大学助教授	渡辺　誠

遺跡周辺の地形測量　瀬峰町役場　　鎌田渉男

5．本書の大部分の執筆は調査担当者佐藤信行が行なったが，下記の章は次の各氏が図版の作成をも含めて執筆したものである。

Ⅱ．地理的・歴史的環境

調査員　佐々木尚見

Ⅵ．がんげつ遺跡出土の鉄器，鉄滓について

調査員　鴇田勝彦

Ⅶ．がんげつ遺跡出土の炭化物について

大阪市立大学理学部教授　粉川昭平

Ⅷ．がんげつ遺跡出土の炭化米等について

国分寺市文化財審議委員　佐藤敏也

6．本書の編集は，調査担当者佐藤信行と瀬峰町教育委員会が行なった。

7．今回の発掘調査をもって，がんげつ遺跡第２次発掘調査とし，昭和50年５月に実施した調査をがんげつ遺跡第１次発掘調査とする。

8．遺物，記録類は全て瀬峰町教育委員会で保管し，その一部を展示している。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過……1

Ⅱ．地理的・歴史的環境……1

Ⅲ．調査の方法と経過……6

Ⅳ．基本層序……8

Ⅴ．発見された遺構と遺物……9

Ⅵ．がんげつ遺跡出土の鉄器，鉄滓について……20

Ⅶ．がんげつ遺跡の炭化物について……24

Ⅷ．がんげつ遺跡の炭化米等について……25

Ⅸ．まとめ……36

Ⅰ．調査に至る経過

がんげつ遺跡は『瀬峰町史（全)』(注１）にも掲載され，奈良時代，平安時代の遺物を出土する遺跡として知られていた。

本遺跡において発掘調査が初めて実施されたのは昭和50年５月のことである。調査の結果，３回の改築を伴なう竪穴住居跡１棟とそれに伴なう平安時代の土師器，須恵器，鉄器，鉄滓等が発見された(注２)。ここに本遺跡はかなり広範囲にわたる古代集落跡であることが推定され，注目を集めた。

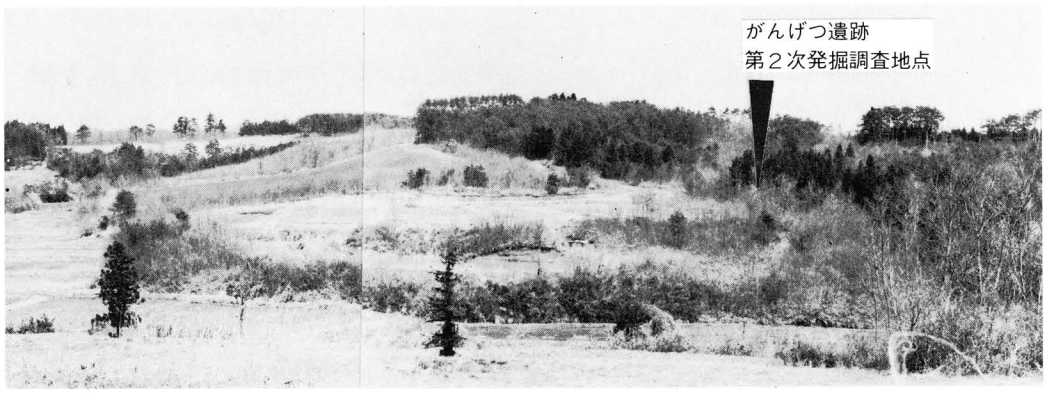
昭和52年，前述した発掘調査地域より東方約200ｍの地域が，水田造成工事によって削平された。ところがその一部に相当数の土師器，須恵器，鉄器，炭化物，それに焼土が発見され，住居跡等遺構の存在が予想されるに至った。

このことについて連絡を受けた瀬峰町教育委員会は，遺跡の保護を前提に，関係諸機関，及び関係者間で協議を重ねた。

その結果，当教育委員会は昭和52年度文化財保護事業として，がんげつ遺跡発掘調査を計画し，同年11月調査を実施した。

注１　瀬峰町役場　1966年『瀬峰町史（全)』

注２　瀬峰町教育委員会　1977年「がんげつ遺跡」『瀬峰町文化財調査報告書』第１集



第２次発掘調査地点

Ⅱ．地理的・歴史的環境

〔地理的環境〕

がんげつ遺跡は宮城県栗原郡瀬峰町大里字富岩石(がんげつ)12－13に所在し，東北本線瀬峰駅からは，

西北西の方向約２kmの位置にある。

瀬峰町を地形的に概観すると，当町北部，中央部，南部を流れる次の三本の河川によって区分される。

瀬峰川（せみねがわ）　：瀬峰町北部藤沢地区を貫流する河川で，当町の東に位置する南方町沼崎で小山田川と合流し，蕪栗沼（かぶくりぬま）に注ぐ。

小山田川（おやまだがわ）：瀬峰町の西に位置する高清水町を横断し，当町中央部を流れる河川で，蕪栗沼に注ぐ。

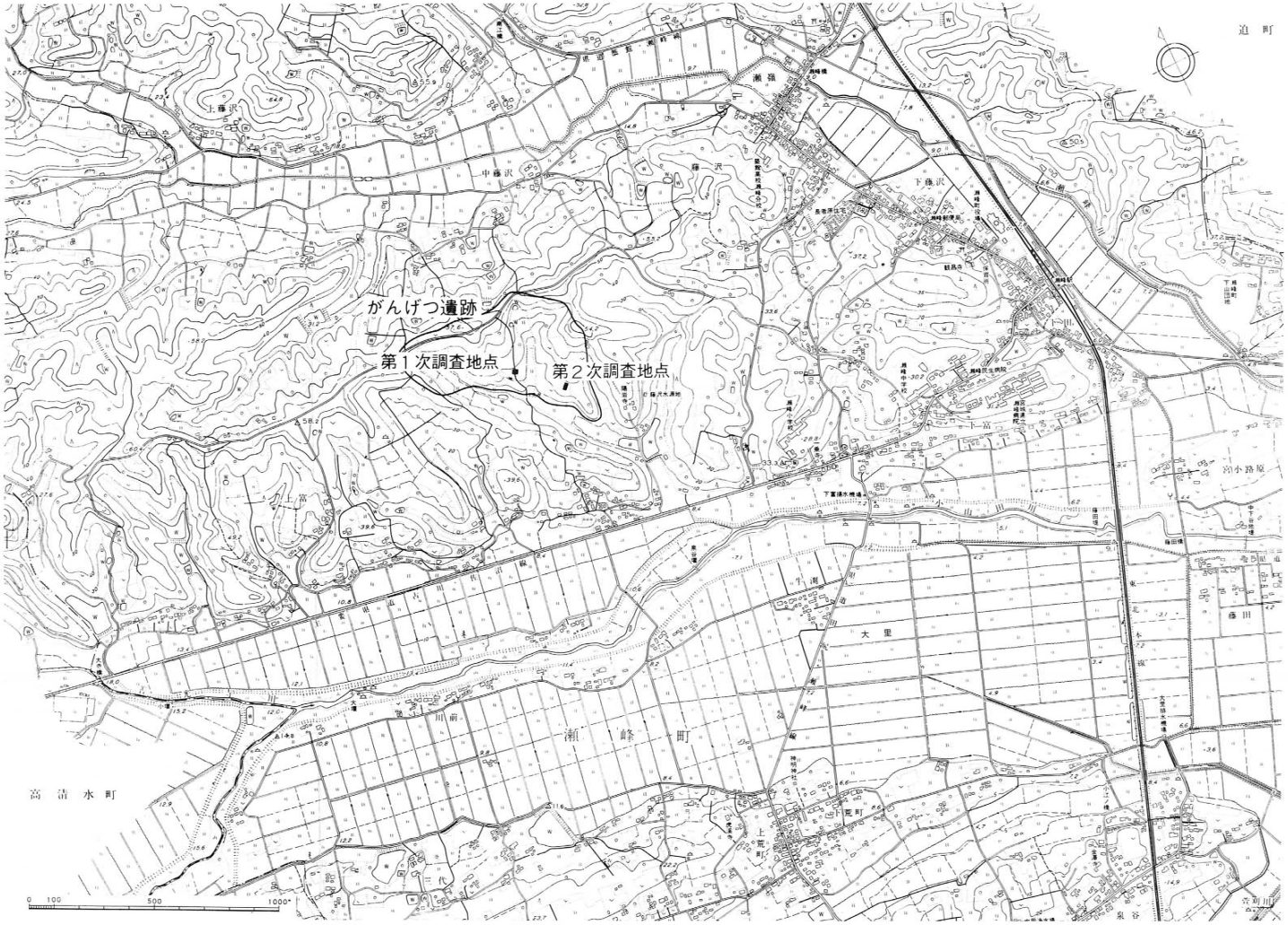
萱刈川（かやかりがわ）　：高清水町萱刈を通り，瀬峰町の南に位置する田尻町との境界沿いに，当町南部を流れる河川で，蕪栗沼に注ぐ。

がんげつ遺跡は，上記瀬峰川と小山田川にはさまれた東西にのびる丘陵上に位置する。本丘陵は，奥羽山脈から派生する丘陵の一つであり，高清水町を経て，当町に至る極めてなだらかな丘陵である。ちなみに，標高は最も高い地点でも50mほどで，遺跡の位置する地域は標高30m前後である。

がんげつ遺跡の立地を微地形的に述べると，当町中央部を流れる小山田川北岸にある要害付近から北にのびる小谷が，遺跡付近でＹ字状に分岐している。遺跡はその前面南向きに，なだらかな斜面を有する広大な台地上に展開されている。今回の調査地点は，上述のＹ字状小谷の分岐点の東側，南面する緩斜面が選ばれた。遺跡付近の土地利用状況は，山林，水田，農道である。

なお，昭和50年度同遺跡発掘調査地点(注１)は，小谷分岐点西側にあたり，今回の調査地点西方約200ｍの距離にある。

第１次発掘調査地点（第２次調査地点よりのぞむ）



第1図　がんげつ遺跡位置図

〔歴史的環境〕

がんげつ遺跡の歴史的環境を述べるに際しては，便宜的に瀬峰町内から発見されている資料(遺跡，遺構，遺物)に限定した。また，原始時代(旧石器時代，縄文時代),古代(弥生時代，古墳時代，奈良・平安時代)，中世・近世という区分も便宜的なものである。

①原始時代

旧石器時代

自然物の獲得経済段階に位置する旧石器時代の遺跡は，現在のところ町内からは発見されていない。

縄文時代

旧石器時代と同様，経済的基盤を自然物の獲得に置いていた縄文時代の遺物を出土する遺跡は８ケ所ある。代表的な遺跡としては，空堤遺跡(遺跡登載番号：46014,前期)，がんげつ遺跡(遺跡登載番号：46017，前期，中期)，大鰐谷北向遺跡(遺跡登載番号：46013,後期)があげられる。

しかし，これらいずれの遺跡からも小破片しか出土せず，しかも明確な遺構も発見されていないため，具体的な様相は不明であると言わざるを得ない。

②古代

弥生時代

弥生時代は，前代までの自然物採集の経済段階から水稲栽培にその経済的基盤を移した時代と理解されているが，遺物が発見されている遺跡は２ケ所しかあげることができない。即ち，大鰐谷南向遺跡(注２)，大境山遺跡(遺跡登載番号：46040)の２遺跡である。

大境山遺跡は，昭和54年７月より町教育委員会が３万数千m^2にも及ぶ全面発掘を継続しており，多数の弥生土器等が出土している。しかしながら，確実に弥生時代に属する遺構は発見されていない。このことから，弥生時代の生活の実態を現段階で述べることは不可能である。

古墳時代

古墳時代は，弥生時代から受け継がれた水稲栽培等農耕による生産力が増大し，その結果，共同体間では階級分化が促され，支配者層が出現した時期である。

この時代の代表的な集落跡としては大境山遺跡がある。前述のように現在発掘中であるが，古墳時代初期の住居跡11基が検出された。これらの住居跡は丘陵の尾根（標高34～35m）上にのみ整然と並んで検出された。これらの住居跡に伴なって多数の土師器や土製の紡錘車，砥石などが発見された。

古墳としては，王壇古墳(遺跡登載番号：46001)，四ツ壇古墳(遺跡登載番号：46002)，杉ノ壇古墳(遺跡登載番号：46026)，瀬峰西古墳群(遺跡登載番号：46027)，八幡古墳群(遺跡登載番

号：46037)，長者原古墳群(遺跡登載番号：46068)などがあげられるが，いずれもその可能性が考えられるだけで確証はない。今後の調査が期待される。

奈良・平安時代

奈良・平安時代になると，この地域も古墳時代以来の地域的支配者に代わって，律令制度に基づいた政治体制下に組み入れられ，収奪を目的とした国家の直接的支配を受けることとなった。

この時代の遺跡は急激に数を増す。

集落跡として代表的な遺跡としては，今回の調査対象遺跡である，がんげつ遺跡，長者原Ⅱ遺跡(遺跡登載番号：46038)(注３)，大境山遺跡があげられる。

これらの遺跡からはいずれも発掘調査により，奈良・平安時代の住居跡が多数検出されており，この時期の居住の場がなだらかな丘陵上にあったことを示している。

このように，多数の住居跡や多種にわたる豊富な遺物が発見される背景としては，前代と比較して，その人口を支える飛躍的な生産力の発展があったものと考えられる。しかし，現在のところ生産に関係する遺跡（水田・畑地などの農耕地跡，工房跡，窯跡など）は知られていない。

③中世・近世

中世・近世の遺跡としては館跡や経塚，遺物としては板碑などがある。

館跡としては，桝形館跡(遺跡登載番号：46005)，藤沢館跡(遺跡登載番号：46006)など９ケ所が知られている。これらの各館は，いずれもそれに関する記録は知られておらず，また詳細な測量図もないため，考察は差し控える。ただし，最近，藤沢館跡に関して踏査および簡単な測量図作成を行なった結果，井戸跡が存在することが判明した。井戸跡にはこの時期の多数の遺物が包含されていると予想され，発掘調査の実施によっては，日常生活用具などの面に関してある程度まで解明されるものと考えられる。経塚と考えられる遺跡としては，経壇遺跡（遺跡登載番号：46008)，があげられるが，確実なものかどうか不明である。

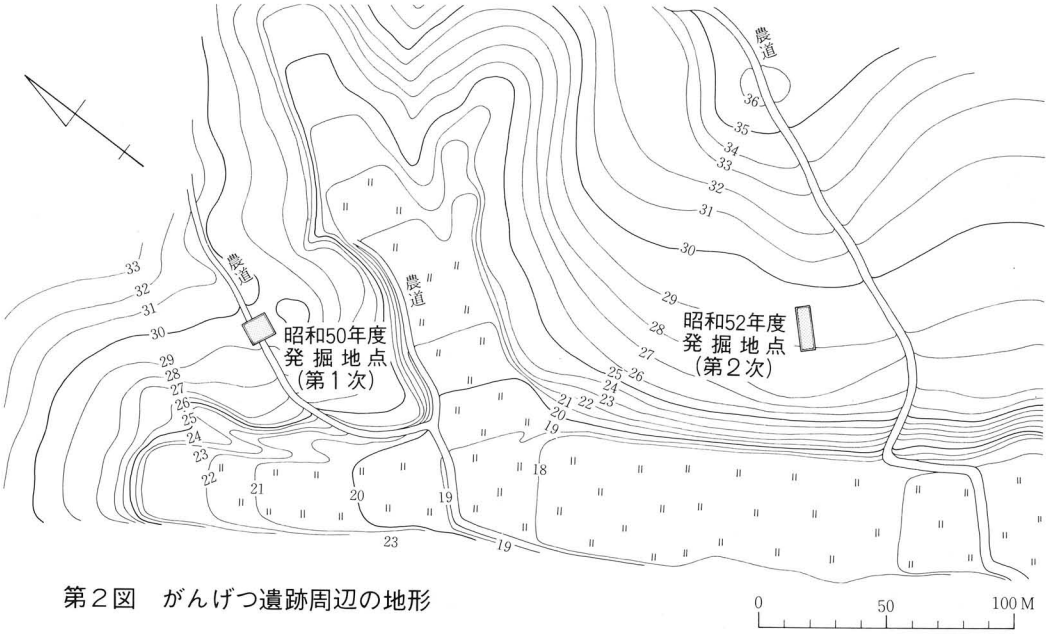
遺物としては，多数の板碑(注４)が発見されている。貴重な中世文書というべきものであるにもかかわらず，その確実な数の把握，散逸の状況，リストの整備，それに伴なう遺構，遺物の検討など手つかずの状況にあるので，今後の調査の成果に期待するしかない。

注１　瀬峰町教育委員会　1977年「がんげつ遺跡」『瀬峰町文化財調査報告書』第１集

注２　宮城県教育委員会　1972年「東北新幹線関係遺跡分布調査報告書」『宮城県文化財調査報告書』第27集

注３　瀬峰町教育委員会　1979年「長者原Ⅱ遺跡」『瀬峰町文化財調査報告書』第２集

注４　瀬峰町役場　1966年『瀬峰町史（全)』



第２図　がんげつ遺跡周辺の地形

Ⅲ．調査の方法と経過

〔調査の方法〕

がんげつ遺跡発掘調査はグリッド方式を採用した。グリッドは３ｍ四方とした。グリッドの設定は，今回の調査の契機となった多量の遺物と炭化物を出土する地点をＡ－１グリッドとして，それに北東の方向に伸びる５グリッド(Ａ－２グリッド～Ａ－６グリッドと呼称する。)を加えた。またＡ－１グリッドからＡ－６グリッドの東隣りには，Ｂ－１グリッド～Ｂ－６グリッドを設定した。このように，調査は上記の12グリッド内について実施したものである。

遺構と出土遺物の図面作成には，遣り方測量を，遺跡周辺の地形図作成には平板測量を用いた。

土色については『新版標準土色帳』(注１)を判定規準とし，土性に関しては国際土壌学会法による粒径区分を参照した。

〔調査の経過〕

11月２日（水）小雨のち晴れ

８時調査参加者，瀬峰町公民館に集合。８時40分，発掘現場に到着し，打ち合せの後，ただちに作業開始。

表土除去作業を行ない，16時30分頃までに全区第２層上面まで掘り下げた。

11月３日（木）晴れ

A－１，A－２グリッドを中心に遺構確認作業を進めた。その結果，２基の竪穴住居跡(第１号住居跡，第３号住居跡）が重複して検出された。切り合いから，第３号住居跡廃絶後，第１号住居跡が構築されたことが認められた。

午後から第１号住居跡の精査に取りかかり，堆積土から炭化物が多量に採取された。

11月４日（金）くもり

第１号住居跡の北西コーナーを追求するため，発掘面積の拡張を実施した。A′－１，A′－２グリッドと称する。その結果，コーナーの一部が検出され住居内堆積土から多量の土器と炭化物が出土した。

午後から第３号住居跡の精査を行なったところ，少量の土器が出土した。

A－６，B－５，B－６グリッドを中心にピットが多数検出された。

11月５日（土）晴れ

第２号住居跡の遺構確認作業の結果，北東，及び南西コーナーが検出された。これから推定すると，本住居跡は一辺７ｍ前後のかなり大きな竪穴住居跡になるらしい。精査の結果，土師器が多数出土した。

午後から，前述のピット群の精査を実施した。その結果，これらの組み合せから掘立柱建物跡の存在が推定されるに至った。

第１号，第３号住居跡の図面作業が終了した。

11月６日（日）晴れ

午前中，第２号住居跡とピット群の実測を行なった。

午後からピット群のダメ押しを実施した。その結果，A－３グリッドより小竪穴遺構（第２号小竪穴遺構）が検出されたため，ただちに精査を行なった。

第２号住居跡発掘風景

一方，第１号，第３号住居跡ダメ押し作業中，A－２グリッドにて小竪穴遺構(第１号小竪穴遺構）が検出され，精査を実施した。

なお，本日をもって今回の発掘調査は終了する予定であったが，かなりの作業量を残してしまったため，それを11月９日以降に行なうこととした。

11月９日（水）晴れ

午前にて第２号小竪穴遺構の図

面作業が完了した。

午後から第１号小竪穴遺構の図面作成に取りかかった。

11月10日（木）雨のちくもり

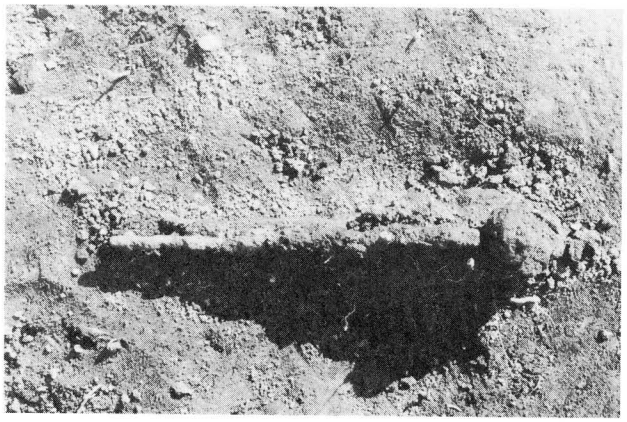
第１号小竪穴遺構の図面を完成させた後，発掘調査実施地域の全体写真撮影を行なった。

11月11日（金）晴れ

教育委員会，及び公民館関係のメンバーが中心となり，現場の撤去作業を行ない，すべての調査，及び作業はこれで終了した。

注１　小山正忠，竹原秀雄
1967年『新版標準土色帳』

第１号住居跡発掘風景



第１号住居跡鉄器出土状況

Ⅳ．基本層序

遺跡の基本層序は４層に区分される。

A－１グリッドからA－３グリッドにかけては，昭和51年に行なわれた開田工事によって削平されていたが，ほかの各グリッドにおいては基本層序を確認することができた。

〈第１層〉　表土で，草木根を多く含む。層厚20～40cm程の黒褐色(10ＹＲ⅔)シルト層で，土師器，須恵器の小破片を僅かに含んでいる。

〈第２層〉　第１層と比較すると固い。層厚６～10cm程と薄いもので，暗褐色(10ＹＲ¾)シルト層である。遺物は第１層よりも大きい土師器，須恵器破片を含む。

〈第３層〉　やや固い褐色(10ＹＲ¼)シルト層である。層厚は２～７cm位の非常に薄い層で下部になるにつれて漸移的に地山に近くなる。

〈第４層〉　固く，粘性の強い明黄褐色(10ＲＹ⅝)砂質粘土層で，本遺跡の地山と考えられる。

V．発見された遺構と遺物

発掘区域内から竪穴住居跡３軒，掘立柱建物跡１棟，小竪穴遺構２基，ピット10個が検出された。これらの遺構に伴って土師器，須恵器，鉄器，鉄滓，植物遺存体等が発見された。

１．竪穴住居跡

〔第１号住居跡〕

遺構の確認　A－１・1′・２・2′区の地山面と第１小竪穴遺構堆積土上面で確認された。

遺構の重複　第１小竪穴遺構・第３号住居跡と重複する。本住居跡はこれらを切っている。

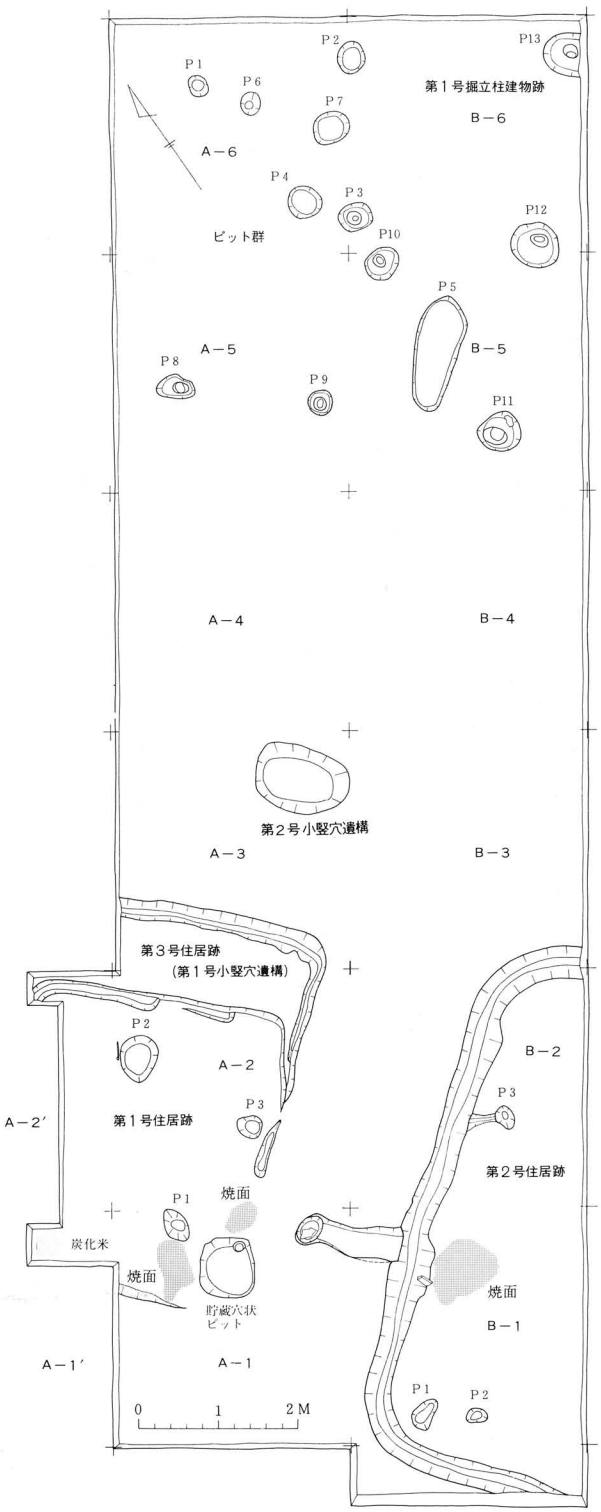
平面形・規模　平面形は方形を基調としたものである。北壁と南壁の間は3.86m に達する。

堆積土　住居内の堆積土は一層である。焼土・炭化物を多量に含む暗褐色のシルト層から成る。

床面　地山と第１小竪穴遺構堆積土を床とする。ほぼ平坦である。

壁　残存部分は少ない。床面から確認面までの高さは最高部で10cm に達する。

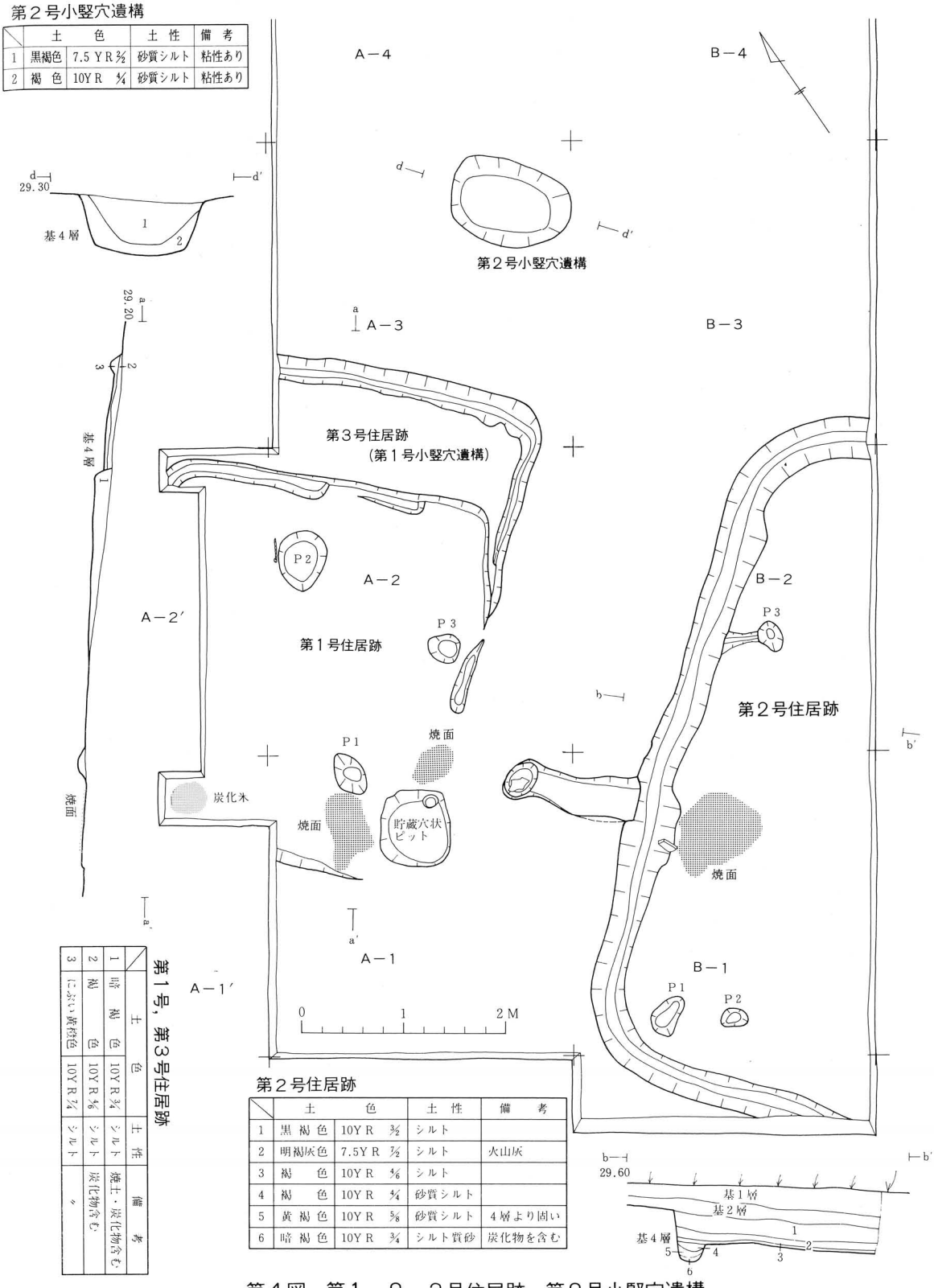
周溝　北壁沿い，東側に一部分認められた。幅は10～22cm，床面から最も深い部分で７cmと浅い。断



第３図　遺構配置図

第２号小竪穴遺構

	土色	土性	備考
1	黒褐色 7.5YR 3/2	砂質シルト	粘性あり
2	褐色 10YR 4/4	砂質シルト	粘性あり



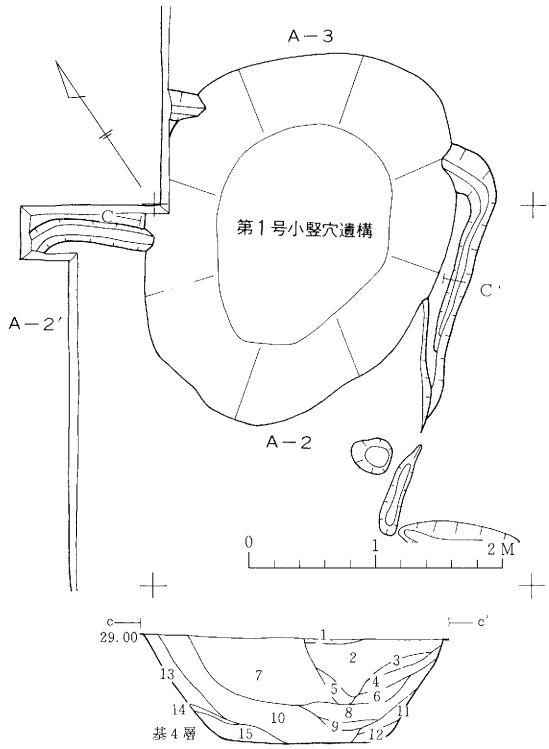
第１号，第３号住居跡

	土色	土性	備考
1	暗褐色 10YR 3/4	シルト	焼土・炭化物含む
2	褐色 10YR 4/6	シルト	炭化物含む
3	にぶい黄橙色 10YR 7/4	シルト	〃

第２号住居跡

	土色	土性	備考
1	黒褐色 10YR 3/2	シルト	
2	明褐灰色 7.5YR 7/2	シルト	火山灰
3	褐色 10YR 4/6	シルト	
4	褐色 10YR 4/4	砂質シルト	
5	黄褐色 10YR 5/8	砂質シルト	4層より固い
6	暗褐色 10YR 3/4	シルト質砂	炭化物を含む

第４図　第１，２，３号住居跡，第２号小竪穴遺構



第10図　第１号小竪穴遺構

第１号小竪穴遺構

	土色		土性	備考
1	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂土	
2	褐色	10YR4/4	砂土	
3	黄褐色	10YR5/8	シルト	
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	シルト	
5	黄褐色	10YR5/6	シルト	
6	黄褐色	10YR5/8	シルト	
7	明黄褐色	2.5Y 7/6	シルト	
8	褐色	10YR4/6	シルト	
9	黄褐色	10YR5/8	砂質シルト	
10	明黄褐色	2.5Y 7/8	シルト	
11	褐色	10YR4/4	シルト	
12	明黄褐色	10YR7/6	砂土	
13	明黄褐色	2.5Y 6/8	シルト	
14	明黄褐色	2.5Y 6/8	シルト	
15	明黄褐色	2.5Y 6/8	シルト	

面形はU字形を呈す。

柱穴　床面から4個のピットが確認された。規模・深さ・配置等に規則性がなく遺構に伴う柱穴を明らかにすることはできなかった。

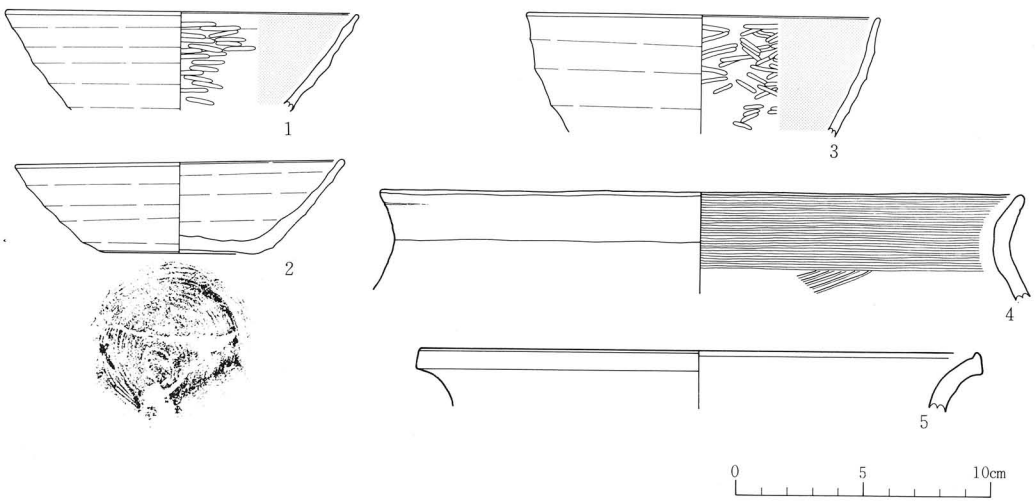
カマド　本体・煙道等は検出されなかったが，床面の南東隅に焼面が遺存する。カマドの燃焼部である可能性がある。

貯蔵穴状ピット　南東隅に位置する。平面形は65×75cmの方形を呈す。深さは20cmである。

炭化米出土状況　床面の2ケ所から出土した。スクリントーンを付した部分では，本遺跡から出土した炭化米のうち7～8割の量が出土している。遺存状態の良いものである。またP_2 の上面からもブロック状にまとまって発見されている。

出土土器

実測図番号	写真番号	種　別	器　種	出土状況	体部外面	底部外面	内　　面	備　　考
第5図1		土師器	坏	床面	ロクロ調整		ミガキ→黒色処理	
第5図2	第6図版4	土師器	坏	床面	ロクロ調整	回転糸切り	ロクロ調整	加熱が原因と考えられる脆弱化が著しい
第5図3		土師器	坏	床面	ロクロ調整		ミガキ→黒色処理	
第5図4		土師器	甕	床面	不明		ハケメ→ヨコナデ	体部外面の磨滅が著しい
第5図5		土師器	甕	床面	不明		不明	内外面の磨滅が著しい



第5図　第1号住居跡出土土器

〔第２号住居跡〕

遺構の確認　B－１・2′－３区の地山面で確認された。東半の大部分が発掘区域外にのびている。

遺構の重複　他の遺構との重複はなかった。

平面形・規模　未調査の部分が多いが，平面形は隅丸方形と判断される。規模は，北壁と南壁の間で6.90m に達する。

堆積土　３層認められた。第１層は柔らかい褐色シルト層であり，層厚は14～18cmである。第２層は明褐灰色粘土質砂土で，層厚は６～10cmである。第３層は褐色砂質シルトで，床面全域を覆っている。

床面　地山を床とする。平坦で硬くしまっている。

壁　立ち上りは全体的に急角度であり，床面からの高さは30～45cmに達する。

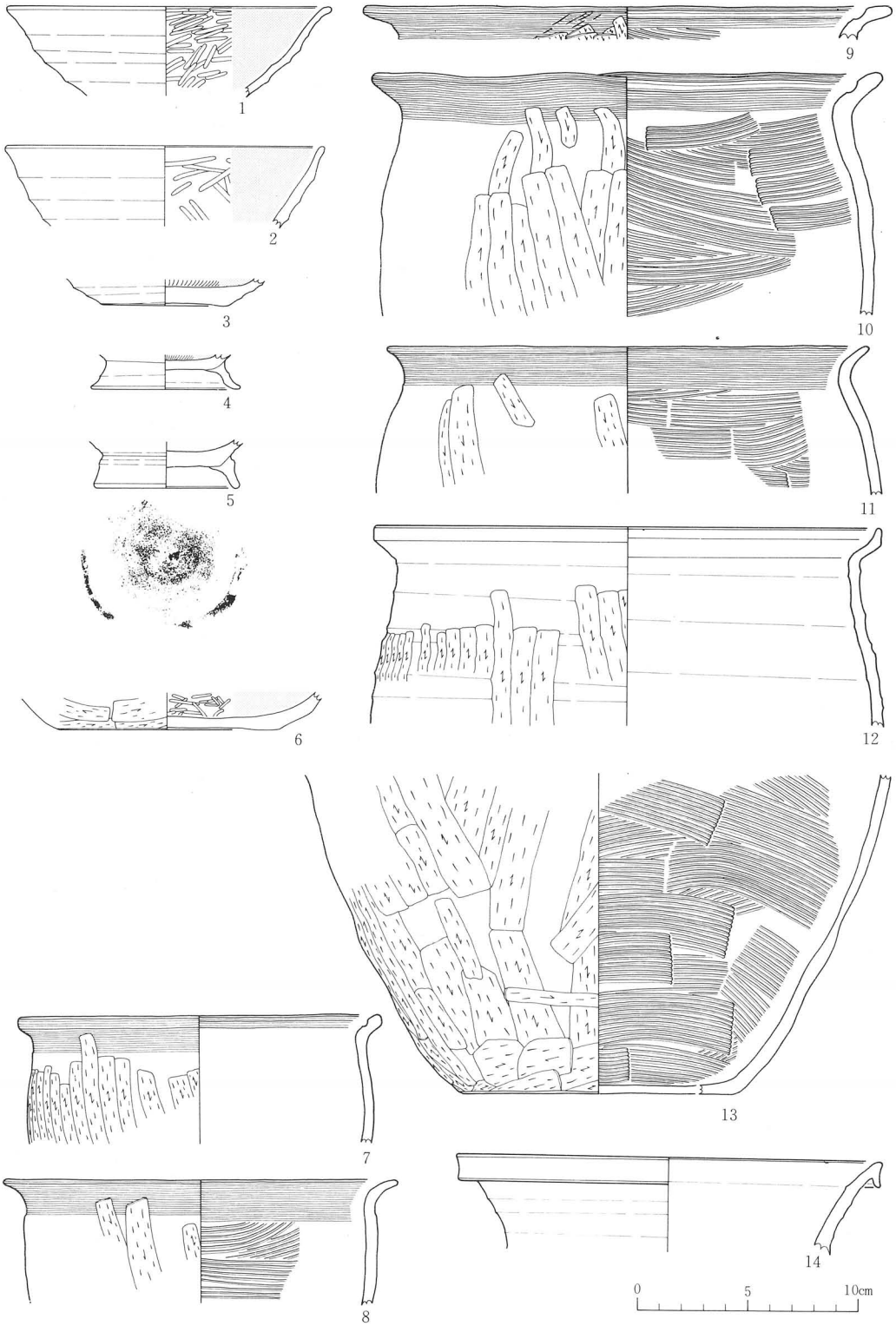
周溝　発掘区域内では全周する。幅は30～40cm，深さは15～25cmである。断面形はＵ字形を呈す。堆積土は，３層認められた。

柱穴　床面から３個のピットが検出された。規模・深さ・配置等に規則性がなく遺構に伴う柱穴を明らかにすることができなかった。

カマド　西壁の中央部に位置する。燃焼部底面・煙道から成り本体は既に失われている。燃焼部の底面は80×90cmの範囲にわたって火熱によって赤変している。煙道は長さ1.35m，幅40cmの規模である。先端には直径38cm，深さ30cmの煙出しピットを伴う。床面との間には約20cmの段差を伴う。

出土土器

実測図番号	写真番号	種別	器種	出土状況	体部外面	底部外面	内面	備考
第６図１		土師器	坏	堆積土３層	ロクロ調整		ロクロ調整→ミガキ→黒色処理	
第６図２		土師器	坏	堆積土１層	ロクロ調整		ミガキ→黒色処理	
第６図３		土師器	坏	堆積土１層	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第６図４		土師器	高台坏	堆積土１層	ロクロ調整	ロクロ調整	ミガキ→黒色処理	
第６図５		土師器	高台坏	堆積土１層	ロクロ調整	回転糸切り→ロクロ調整	不明	内面の磨滅が著しい
第６図６		土師器	鉢	堆積土１層	ケズリ	ケズリ	ミガキ→黒色処理	
第６図７	第７図版２	土師器	甕	堆積土１層	ヨコナデ→ケズリ		沈線→ヨコナデ	
第６図８		土師器	甕	堆積土１層	ヨコナデ→ケズリ		ハケメ→ヨコナデ	
第６図９		土師器	甕	堆積土１層	ヨコナデ→ケズリ		沈線（ハケメ）→ヨコナデ	
第６図10	第７図版７	土師器	甕	堆積土１層	ヨコナデ→ケズリ		沈線（ハケメ）→ヨコナデ	
第６図11	第７図版１	土師器	甕	堆積土１層	ヨコナデ→ケズリ		ハケメ→ヨコナデ	
第６図12	第７図版４	土師器	甕	堆積土２層	ロクロ調整→ケズリ		ロクロ調整	
第６図13	第７図版８	土師器	甕	堆積土３層	ケズリ	ケズリ	ハケメ	
第６図14	第７図版９	須恵器	甕	堆積土２層	ロクロ調整		ロクロ調整	
―――		緑釉陶器	碗	堆積土３層	ロクロ調整→施釉		ロクロ調整→施釉	釉の色調は灰オリーブ色（5Y，5/2），器厚は４mm



第６図　第２号住居跡出土土器

〔第３号住居跡〕

遺構の確認　A－２・2′・３区の地山面と第１号小竪穴遺構堆積土上面で確認された。

遺構の重複　第１号小竪穴遺構・第１号住居跡と重複する。本住居跡は第１号住居跡によって切られ，第１号小竪穴遺構を切って構築されている。

平面形・規模　第１号住居跡と重複し，また発掘区域外にのびているが，検出された部分での平面形は方形を基調としたものである。規模は不明である。

堆積土　堆積土は２層認められた。第１層は褐色シルト層で，第２層はにぶい黄橙色シルト層である。いずれも薄く堆積している。

床面　地山と第１号小竪穴遺構堆積土上面を床とする。僅かに凹凸が認められる。

壁　床面から確認面までの高さは５～７cmである。周溝下端部からの立ち上りは比較的緩やかである。

周溝　検出された部分ではほぼ全周する。幅13～25cm，床面からの深さは６～13cmである。断面形はU字型である。

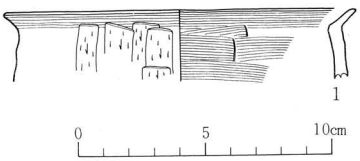
柱穴・カマド　共に検出されなかった。

出土土器

実測図番号	写真番号	種別	器種	出土状況	体部外面	底部外面	内面	備考
第７図１		土師器	甕	周溝	ヨコナデ→ケズリ		ヨコナデ→ヘラナデ	
――		緑釉陶器	碗	堆積土２層	ロクロ調整→施釉		ロクロ調整→施釉	釉の色調は浅黄色(5Y，7/4)，器厚は4．6mm～３mm

２．第１号掘立柱建物跡

Ａ－５・６，Ｂ－５・６区の地山面で確認された。本遺構を構成するピットは，Ｐ３，９，11，12，13であり，いずれも柱痕跡を伴う。間尺は2.28～2.52ｍの間である。土師器を出土したピットがあるが造られた年代は明らかでない。



第７図　第３号住居跡出土土器

３．小竪穴遺構

〔第１号小竪穴遺構〕

遺構の確認　A－２・2′・３区の地山面で確認された。

遺構の重複　第１・第３号住居跡によって切られている。

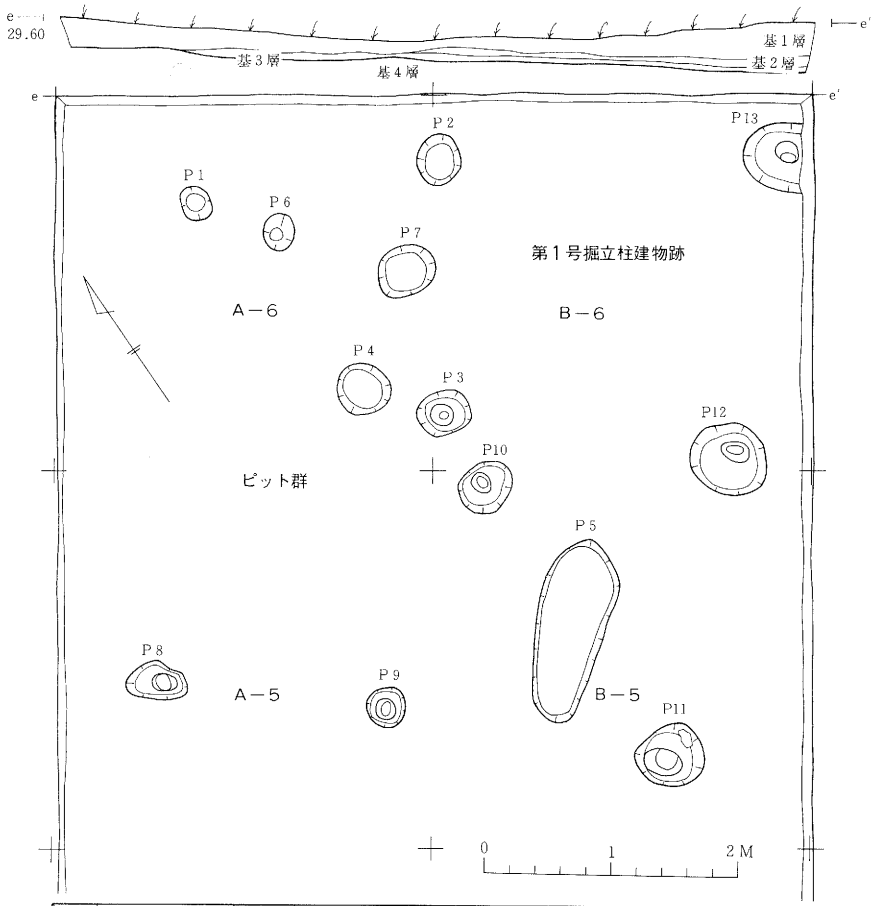
平面形・規模　平面形は，2.30×3.10ｍの長円形を呈す。深さは84cmに達する。

〔第２号小竪穴遺構〕

遺構の確認　A－３，B－３区の地山面で確認された。

遺構の重複　他の遺構との重複はない。

平面形・規模　平面形は，0.85×1.22m の長円形である。深さは54cmに達する。

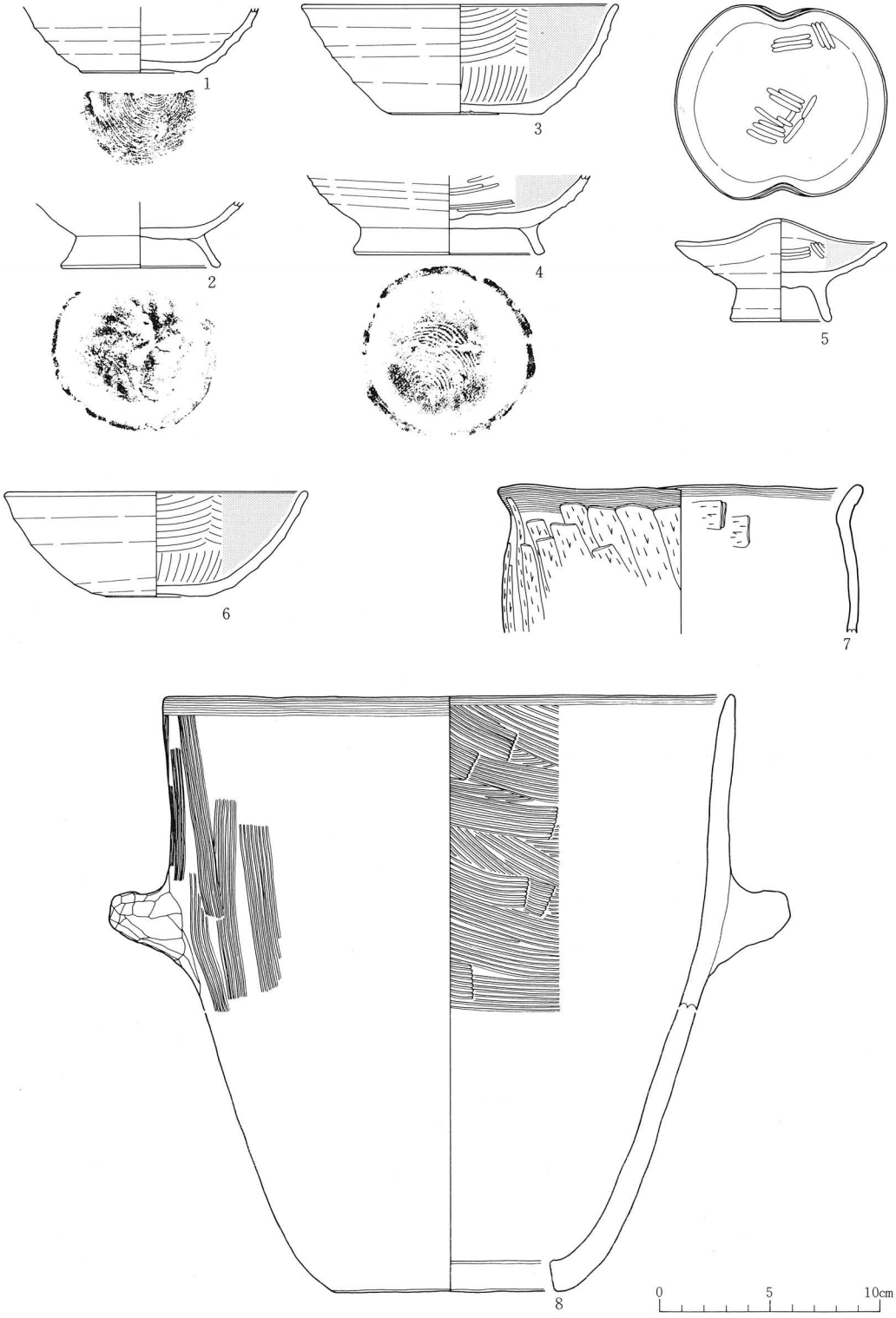


	土　色		土　性	備　考	深さ(cm)		土　色		土　性	備　考	深さ(cm)
P 1	暗褐色	10Y R 3/3	シルト		6	P 8	暗褐色	10Y R 3/4	シルト		35
P 2	褐　色	10Y R 4/4	シルト	土器片出土	9	P 9	暗褐色	10Y R 3/3	シルト		56
P 3	黒褐色	10Y R 3/2	シルト		13	P 10	暗褐色	10Y R 3/3	シルト	土器片出土	16
P 4	暗褐色	10Y R 3/3	シルト		8	P 11	暗褐色	10Y R 3/4	シルト	土器片出土	70
P 5	暗褐色	10Y R 3/3	シルト	炭化物出土	7	P 12	褐　色	10Y R 4/4	シルト		32
P 6	暗褐色	10Y R 3/4	シルト	土器片出土	20	P 13	暗褐色	10Y R 3/4	シルト		75
P 7	暗褐色	10Y R 3/3	シルト		8						

第８図　第１号掘立柱建物跡，ピット群

４．ピット群

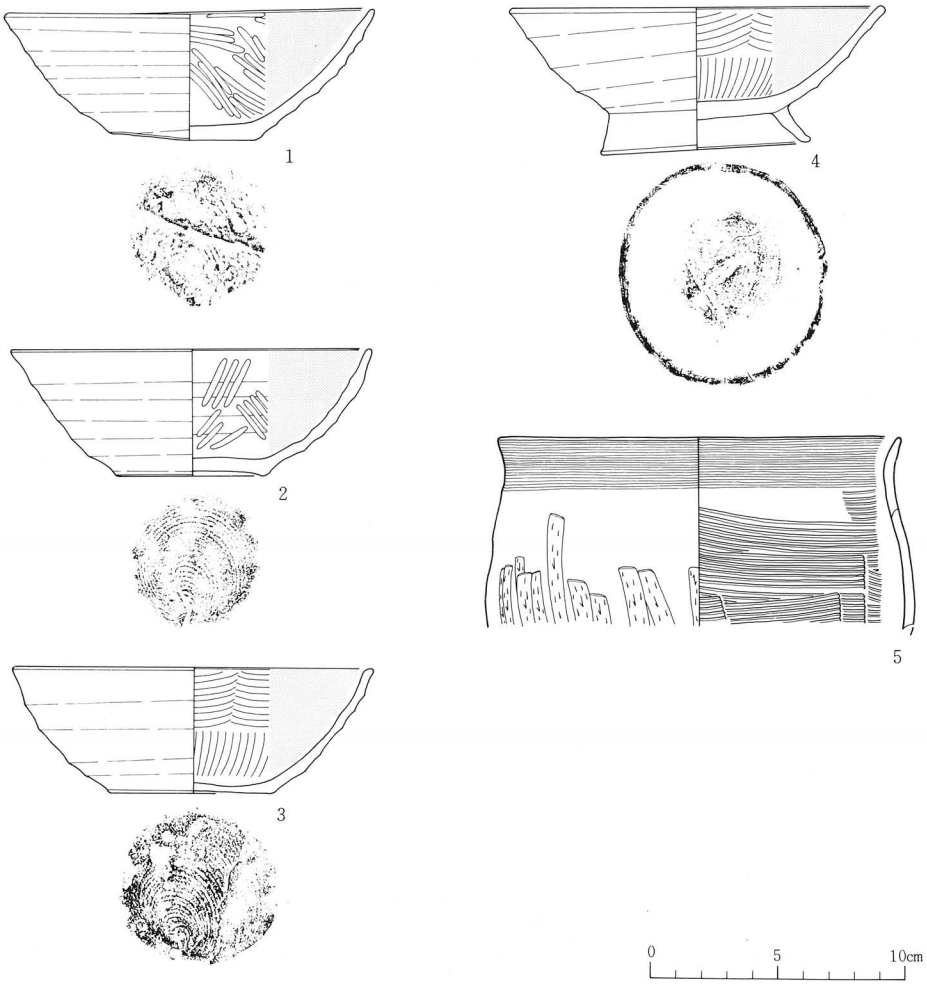
10個検出された。これらは基本層序２層あるいは地山面で確認された。柱痕を伴うものがあるが配置に規則性がなく掘立柱建物跡に伴うか否か定かでない。



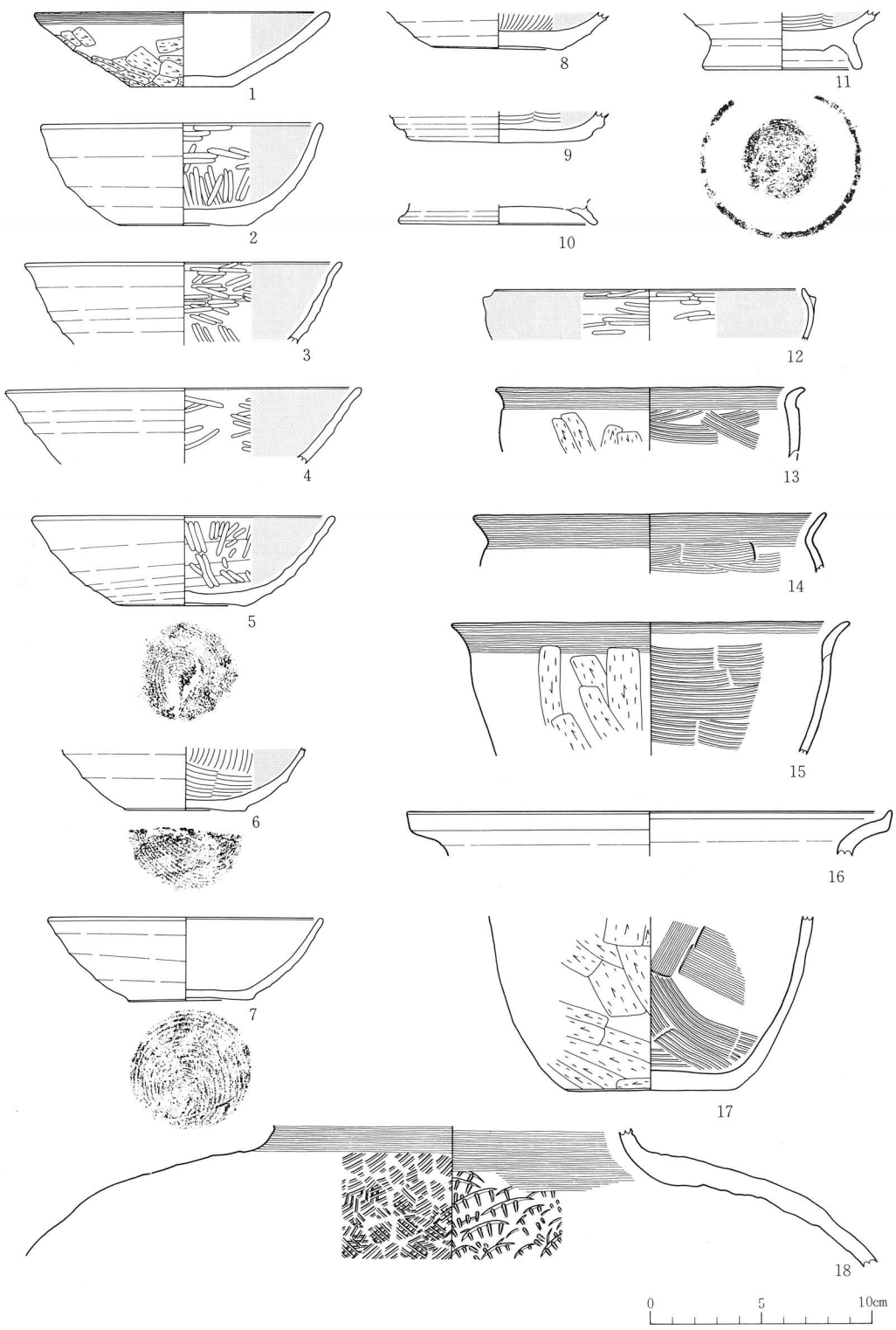
第９図　各ピット出土土器

各ピット出土土器

実測図番号	写真番号	種別	器種	出土状況	体部外面	底部外面	内面	備考
第9図1		土師器	坏	ピット6	ロクロ調整	回転糸切り	ロクロ調整	
第9図2		土師器	高台坏	ピット6	ロクロ調整	ヘラナデ→ロクロ調整	不明	内面の磨滅が著しい
第9図3	第6図版8	土師器	坏	ピット7	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第9図4	第6図版11	土師器	高台坏	ピット7	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第9図5	第6図版12	土師器	耳皿	ピット7	ロクロ調整	ロクロ調整	ロクロ調整→ミガキ→黒色処理	
第9図6	第6図版7	土師器	坏	ピット8	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第9図7	第7図版3	土師器	甕	ピット8	ヨコナデ→ケズリ		ヨコナデ ケズリ	
第9図8	第7図版5	土師器	甑	ピット11	ハケメ→ヨコナデ ヘラナデ		ハケメ→ヨコナデ	



第11図　Ａ６グリッド出土土器



第12図　各グリッド出土土器

Ａ－６グリッド出土土器

実測図番号	写真番号	種別	器種	出土状況	体部外面	底部外面	内面	備考
第11図1	第6図版3	土師器	坏	A-6グリッド3層	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第11図2	第6図版9	土師器	坏	A-6グリッド3層	ロクロ調整	回転糸切り	ロクロ調整→ミガキ→黒色処理	
第11図3	第6図版6	土師器	坏	A-6グリッド3層	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第11図4	第6図版10	土師器	高台坏	A-6グリッド3層	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第11図5	第7図版6	土師器	甕	A-6グリッド3層	ヨコナデ ケズリ		ハケメ→ヨコナデ	

各グリッド出土土器

実測図番号	写真番号	種別	器種	出土状況	体部外面	底部外面	内面	備考
第12図1	第6図版1	土師器	坏	B-6グリッド3層	ヨコナデ ケズリ	ナデ	黒色処理	内面の磨滅が著しい
第12図2	第6図版5	土師器	坏	B-6グリッド3層	ロクロ調整	ケズリ	ミガキ→黒色処理	
第12図3		土師器	坏	A-6グリッド2層	ロクロ調整		ロクロ調整→ミガキ→黒色処理	
第12図4		土師器	坏	B-6グリッド2層	ロクロ調整		ミガキ→黒色処理	
第12図5		土師器	坏	A-6グリッド2層	ロクロ調整	回転糸切り	ロクロ調整→ミガキ→黒色処理	
第12図6		土師器	坏	B-6グリッド2層	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第12図7	第6図版2	土師器	坏	A-6グリッド1層	ロクロ調整	回転糸切り	不明	内面の磨滅が著しい
第12図8		土師器	坏	B-6グリッド2層	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第12図9		土師器	坏	B-2グリッド3層	ロクロ調整	回転糸切り	ミガキ→黒色処理	
第12図10		土師器	高台坏	表採	ロクロ調整			
第12図11		土師器	高台坏	B-5グリッド2層	ロクロ調整	ミガキ	ミガキ→黒色処理	
第12図12		土師器	碗	A-6グリッド1層	ロクロ調整→ミガキ→ 黒色処理		ミガキ→黒色処理	
第12図13		土師器	甕	A-6グリッド1層	ヨコナデ ケズリ		ハケメ→ヨコナデ	
第12図14		土師器	甕	A-6グリッド1層	ヨコナデ		ヨコナデ→ヘラナデ	
第12図15		土師器	甕	表採	ヨコナデ→ケズリ		ヨコナデ ハケメ	
第12図16		土師器	甕	A-6グリッド1層	ロクロ調整		ロクロ調整	
第12図17		土師器	甕	B-6グリッド2層	ケズリ	ケズリ	ハケメ→ヘラナデ	
第12図18	第7図版10	須恵器	甕	A-6グリッド3層 B-6グリッド2層	叩き目→ヨコナデ		アテ目→ヨコナデ	

Ⅳ．がんげつ遺跡出土の鉄器，鉄滓について

〔鉄製品〕

第１号住居跡の床面から刀子２，棒状鉄片３と紡錘車および糸巻棒が各１出土した。

刀子(第13図1,2，　第８図版1.2)

刀子１は比較的原形をとどめており，柄と思われる木質部分がよく残っている。先端部は丸味があり，はじめ折損部かと思われたが，切先であった。刃部は平棟造りで，わずかな反りが見られ，薄く短いのが特徴である。柄部からわずかに見られる茎から推定すると，刃区が深く棟区はほとんど認められない。鍛造法が丸鍛えなのか折返し鍛えなのかは不明である。現長10.8cm，刃幅1.4～1.8cm，棟幅0.2cm。

刀子2は刃先から4.3cm残して折損している。平棟造りで，遺存部からは反りは見られない。折損部の断面に鍛接面が認められ，折り返し鍛えで製作されたものと推定される。現長4.3cm，　刃幅1.4cm，棟幅0.2cm。

棒状鉄片(第13図3～5，第8図版3～5)

断面0.4cm角の棒状破片は，鉄鏃の茎(なかご)部分と思われるが，鉄釘あるいは糸巻棒の破片かも知れない。うち2点に曲げが見られるが，その曲り具合から，鍛鉄の中でも炭素含有量の少ない(0.2%C前後)素材からの鍛造品と推定される。

紡錘車・糸巻棒(第13図6,7，　第8図版6,7)

紡錘車(紡錘)は，細長い棒(糸巻棒)に通して，あらかじめ細くつないでおいた繊維に回転を利用して撚りをかける道具である。土製品が多く，鉄製品は県内では奈良時代以降の遺跡から出土している。製品は遺存部がわずかであったが，糸巻棒が挿入されたまま錆化して付着していた。直径5.4cm，肉厚0.3cmの鍛製品である。真中の穴径はふさがっており不明だが，0.4cm前後であろう。

糸巻棒は紡錘車に付着している長さ2.0cmの部分と，現長18.6cmのものとがあり，出土状況から見て一体品と思われる。0.4～0.5cm角のやや中太りの鍛製品で，よく鍛えられている。

鉄滓(第8図版8,9)

発掘区内より鉱滓2個が出土した。GN－1(最大長さ6.7cm，重さ110g)，GN－2(同5.8cm，122g)ともにその表面は鉄の酸化物を思わせる赤褐色をしている。図版は保存処理後のものでコークス状の黒褐色を呈す。破面はいくつかの気孔があるが緻密部分が多い。粘土や炭のかみこみも見られ，比較的なめらかな飴状の製錬滓とは異なる感じがする。還元鉄を精錬加工する際に発生する鍛冶滓と思われるが断定はできない。

このうち，GN－1について自然科学的検討を試みた。よく洗浄して乾燥させた後，　2つに切断し，片方を顕微鏡観察試料にし，残りを成分分析およびx線回折の試料に供した。その結果は表1，表2，表3，第9図版に示した通りである。

鉄滓の成分

鉄(Fe)，けい素(Si)，チタン(Ti)が主成分と考えられ，銅（Cu）は辛うじて認められる程度であり，分光分析の結果からはがんげつ遺跡出土の鍛冶滓と類似しているといってよい。

化学分析の結果，全鉄量(T.Fe)は51.31%と高く，そのうち酸化第1鉄(FeO)40.53%，酸化第2鉄(Fe_3O_4)28.27%であった。造滓成分($SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO$)は19.26%とT.Feの37.5%にすぎず，　鍛冶滓に類似した値を示している。　ところが，　二酸化チタン(TiO_2)が9.02%と高く，地域差があるとはいえ，鍛冶滓と断定するには問題がある。

また，TiO_2の量やバナジウム(V)，Cuの含有量から，原鉱は赤目系の砂鉄であると推定される。

鉄滓の鉱物組織

顕微鏡写真でわかるように，同一試料でも検鏡部分によってその様相が異なる。上方部(a, b)では，淡灰色長柱状結晶のフェアライト(Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$)を地に，白色粒状のウスタイト(Wustite：FeO)がほぼ均一に分布しているのが見られる。下方(e, f)にゆくに従い多角形状結晶のマグネタイト(Magnetite：Fe_3O_4)が認められ，黒色を示すガラス質も多くなってくるのがわかる。

化学分析に示される元素や酸化物がどのような形状で鉄滓を構成しているかを調べる粉末x線回折の結果，最も強く検出されたのはフェアライト($2FeO \cdot SiO_2$)であった。ついでウスタイト(FeO)が強く，マグネタイト(Fe_3O_4)は意外と少なかった。TiはTiOの形で，MnはMnOの形で存在し，ゲーサイト(goethite：$Fe_2O_3 \cdot H_2O$)は認められず，金属鉄(M・Fe)は痕跡程度であった。

以上の検鏡およびx線回折から，GN－1は鍛冶滓か古代の製錬滓と思われる。

まとめ

1）GN－1の原鉱は赤目系砂鉄である。

2）GN－1が鍛冶滓か製錬滓かは，TiO_2が高いことから判断できかねる。

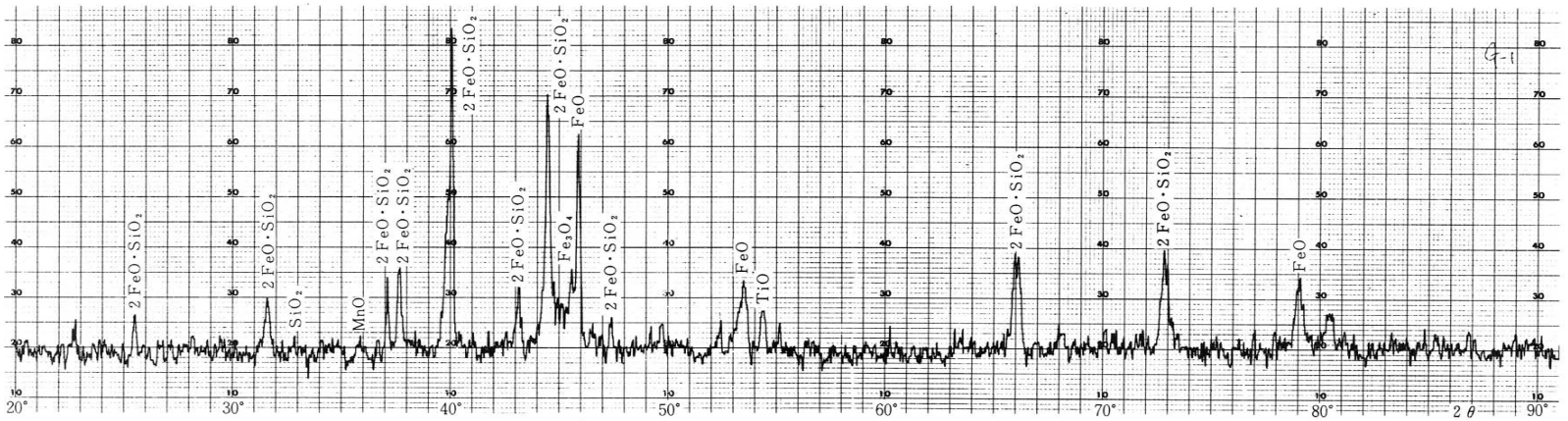
表－1　鉄滓の定性分光分析表（東北金属工業㈱・分析室）

試料		Si	Mn	Cu	Cr	W	Mo	Ni	Co	V	Al	Fe	Ti	Mg	Pb	Sn	Zn	Ca	Na	備考
GN－1		⧻	+·	t	t	－	－	t	t	+	⧺	⧻	⧻·	⧺	－	－	－	+·	t	がんげつ遺跡第2次調査
参考値	G・A	⧻	+·	t	t	－	t	t·	t·	+·	⧻	⧻	⧻	⧺	－	－	－	⧺	+	がんげつ遺跡第1次調査（鍛冶滓）
	B	⧻	+	t	t	－	t·	t	t	+·	⧺	⧻	⧻·	+	t	t	－	+·	+·	
	C	⧻	+·	t·	t·	－	t	t·	t·	+·	⧻	⧻	⧻	⧺	－	－	－	⧺	+	

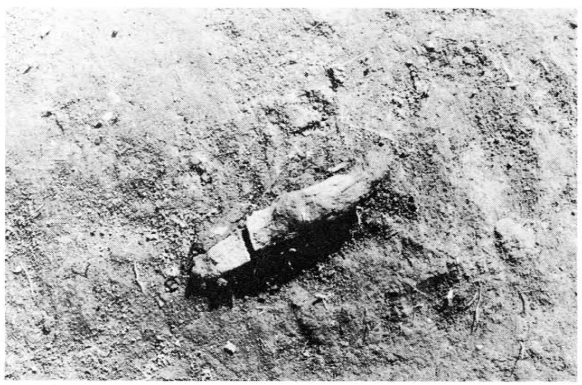
記号
1. ⧻　スペクトル線最強(主体元素)
2. ⧻　スペクトル線頑強(　〃　)
3. ⧻　スペクトル線強　(小量元素)
4. ⧺　スペクトル線鮮明(微量元素)
5. ＋　スペクトル線弱い(微量元素)
6. Trace　スペクトル線辛うじて認め得る(微量元素)
7. －　スペクトル線認め得ない
8. ・　上位記号元素との中間値

表－2　鉄滓の化学分析結果（東北金属工業㈱・分析室）

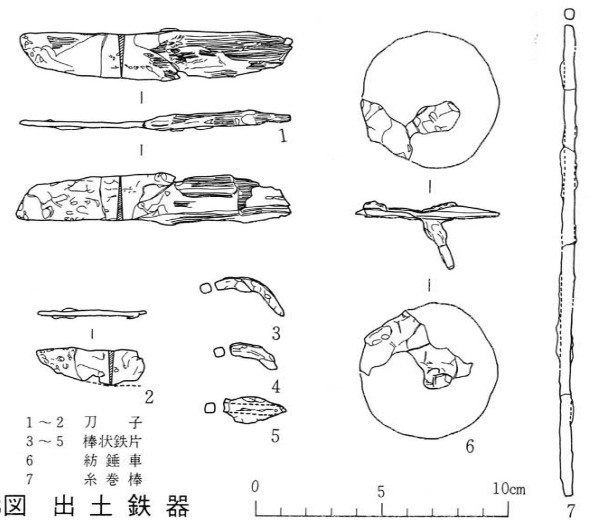
試料		T・Fe	FeO	Fe_2O_3	M・Fe	SiO_2	Al_2O_3	CaO	MgO	MnO	TiO_2	Cu	S	Cr	V	P	C	備考
GN－1		51.531	40.53	28.27	－	14.13	3.61	1.44	1.08	0.40	9.02	0.003	0.046	0.009	0.11	0.081	0.015	がんげつ遺跡第2次調査
参考値	G・A	50.09	51.64	14.21	－	18.65	5.21	1.512	0.86	0.234	6.84	0.008	0.031	0.007	－	－	－	がんげつ遺跡第1次調査（鍛冶滓）
	G・C	54.11	43.42	29.09	－	14.85	3.68	1.064	0.72	0.117	3.68	0.011	0.054	0.024	－	－	－	
	N－25B	50.76	35.02	33.60	－	16.13	4.51	1.11	0.87	0.19	5.58	0.003	0.076	0.058	0.13	0.006	0.038	沼崎山遺跡（桝形滓）



表－３　鉄滓のＸ線回折（東北金属工業㈱・分析室）



第１号住居跡鉄器出土状況



第13図　出土鉄器

Ⅶ. がんげつ遺跡出土の炭化物について

宮城県栗原郡瀬峰町大里字富，がんげつ遺跡(第２次発掘調査)第１号住居跡床面より出土した植物の種子類を，名古屋大学助教授渡辺誠氏の御好意によって調査させて頂いた。その予察的な結果は次のようであった。

試料は発掘後の洗浄によって合計85缶(35mmフィルム・ケースを試料缶とした)得られた。そのうち29缶が筆者の手許に届けられ，分析資料とした。全て焼けて炭化したものである。

試料3. －多数の遊離したヒエ？　の粒で脱穀されたものとみえる。

試料4. －ヒエ？　４個。イネ(炭化米)，多数。シソ？　１個。ナラ属(Quercus)(いわゆるドングリ)の冬芽，１個，これのみは木炭化しておらず，後世のものの混入かもしれない。

試料5. －ヒエ？　多数の小粒。

試料6. －試料５と同じ。

試料23.－ヒエ？　多数。イネ，半分に割れたもの１個。シソ？　５個。小材片２個。

試料25.－ヒエ？　多数。

試料26.－アズキ？　かとみえる子葉(半分)８個。小材片１個。

試料39.－ヒエ？　材片及び不明の小種子少量。

試料41.－保存の悪いイネ(炭化米)。数個のアズキ？（小形)もあり。

試料48.－アズキ？　の一枚の子葉，7.3×3.5㎜の大きさのもの。

試料49.－イネ２個。マクワウリの類１個。小材片１個。他は不明。

試料53.－イネ７個，ふくらんでひどく変形している。ヒエ？　３個。タデ類(polygonum)１個，３角のもの。

試料59.－トチノキの種子３片。一見クリに見えるが，大きな幼根のあとあり。

試料62.－マメ科のもの３個。マクワウリの類(Cucums)１個，こわれている。

試料63.－アズキ？　子葉の一枚と，その破片がそれぞれ１個。

試料64.－アズキ？　の子葉，完全なもの２個，１枚の子葉１個。臍点の部分が大きく溝状にくぼむ。大きさは5.5×3.2㎜。

試料65.－ムギ類１個。小材片２個。

試料66.－イネ多数，ふくらみ特徴が不明瞭になっている。マメ類，小形のもの３個，３×２㎜程度の大きさあり。

試料67.－アサの種子４個。他の１個は不明。

試料70.－ヒエ？　多数。まれに，イネ，アカザの類(あるいはヒエの類か？)あり。他に不明のものあり。

試料71.－クリの子葉破片５個。幼根や胚軸の部分は残っていない。

試料72.－ムギ類？　３個。他はイネ，ごく少量の穎(籾がら)も残存している。

試料73.－アズキ17個。

試料74.－アズキ20個。ナラ属の子葉１個。ムギ類３個。イネ１個。木片７個。他は不明。

試料75.－トチノキの子葉７個。木片１個。

試料76.－イネ科の果実，細長く，５×1.8mmの大きさあり。今のところ何か不明。マクワウリの類の種子３個，6.5×３mm，焼けたためか，ややふくらんで厚くなっている。

試料77.－ムギ類８個。

試料78.－アズキ？　子葉３個。イネ４個，ふくらんでいる。

試料79.－ナラ属の子葉半分。あとはクリが多い。果皮も少しあり，小形で幅17mm程度。

以上まとめると，ヒエ？(一部に，アワ，キビがあるかもしれない)・イネ(炭化米)・ムギの類・アズキ(緑豆をも含む)，あるいは類似のマメ・アサ・マクワウリの類・シソ？　などの栽培品が多く，クリ・トチノキ・ナラ属などは採集品かと思われる。試料76の不明のイネ科のものや，試料70のアカザ科(あるいはヒエ科)のものなどは偶然の混入によるものであろうか。

明瞭な栽培穀物などに混って，トチノキやドングリ類が出てくることは，縄文時代よりアクヌキ技術(注１)が平安時代にも連続していることを示している。

（本論は特定研究『植物性遺物による古代人の生活と環境についての研究について』の成果の一部である。）

注１　渡辺誠　1979年「古代遺跡出土のトチの実」『日本古代学論集』

Ⅷ．がんげつ遺跡出土の炭化米等について

〔米粒の概観〕

がんげつ遺跡(第２次調査)第１号住居跡床面から出土した米粒は，洗浄作業完了状態で筆者の手許に届けられた。試料は４缶(35mmフィルム・ケースを試料缶とした)で，いずれも焼けて炭化しており，全体的に焼け太りのはなはだしいものが多かった。

送付されたものは，試料１，試料２，試料７，試料８，その他に本調査の調査員である佐々木尚見氏が３試料(試料９，試料10，試料11)を計測し，その成果表も届けられた。

試料１　A—1′グリッド出土のもので，約５グラム，829粒であるが，そのなかから正常形を保っているもの629粒を分離し，その30%，193粒を抽出計測した。全部水洗いされており，外容の比較的整ったものが多い。粒は太くまるい。

試料２　A—1′グリッドからブロック状に採取されたもので，約5.3グラム，908粒である。損傷米213粒を除き695粒中から，その15%，102粒を抽出計測した。水洗いしたもので，この粒群も外容は整っていて太くまるい。

試料７　A—２グリッド出土のもので，約５グラム，999粒の中から285粒の損傷粒を除き，638粒を選別し，100粒を抽出計測した。

試料８　A—１グリッド出土のもので，108粒中より60粒を抽出計測した。

試料９　A—２グリッド出土のもので，40粒を抽出計測した。

試料10　A—2′グリッド出土のもので，20粒を抽出計測した。

試料11　A—２グリッド出土のもので，20粒を抽出計測した。

表—４　米　粒　の　形　態

粒 / 出土	粒数	粒長			粒幅			粒厚			粒長粒幅比			粒長粒幅積		
		最大	最小	平均 m±s	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均 m±s	最大	最小	平均
試料１	193	5.60	3.90	4.59±0.29	3.30	2.30	2.92	2.40	1.60	2.04	2.04	1.34	1.58±0.12	17.36	9.60	13.37
試料２	102	5.20	3.70	4.57±0.30	3.30	2.40	2.93	2.30	1.70	2.02	1.88	1.31	1.56±0.12	16.17	9.99	13.36
試料８	60	5.25	3.80	4.46±0.27	3.30	2.40	2.88	2.30	1.80	2.08	1.83	1.33	1.53±0.11	16.27	9.36	13.10
試料７	100	5.05	3.50	4.31±0.32	3.20	2.20	2.81	2.30	1.70	2.05	2.10	1.24	1.54±0.17	15.68	9.24	12.08
試料９	20	5.10	3.90	4.49±0.25	3.40	2.60	2.98	3.20	1.80	2.38	1.77	1.30	1.51±0.15	15.98	10.92	13.38
	20	4.80	3.80	4.38±0.24	3.50	2.60	2.98	2.50	1.70	2.21	1.77	1.26	1.49±0.16	16.10	9.88	12.98
試料10	16	5.20	4.40	4.64±0.23	3.30	2.40	2.99	2.50	1.90	2.15	2.26	1.31	1.55±0.13	16.66	10.56	13.87
試料11	19	4.90	4.10	4.60±0.22	3.60	2.70	3.00	2.80	2.10	2.33	1.74	1.36	1.54±0.12	17.64	12.32	13.80

注：試料９，試料10，試料11は佐々木尚晃氏計測のものを筆者が整表したもので，それには，焼け太りの部分も含めて計測してある。

上表に示すように，粒長の最長5.60mm(試料１)，最短3.50mm(試料７)，平均4.59mm～4.31mmの変異幅を有するものである。粒幅では3.60mm～2.20mm，平均で3.00mm—2.81mmである。一般に粒形を表わすのに粒長/粒幅を用い，その大きさを表わすのに粒長×粒幅を使用しているので，計測した全粒について，表—５および表—６—１，２に整理すると，粒形では**短粒**(粒長/幅比1.4～2.0未満)に属するものが**468粒**，530粒中の88.30%を示す。長幅比2.0以上のもの４粒で，0.76%，1.4未満の円粒が58粒で，10.94%である。大きさでは粒長幅積16.00mm以上の粒が19粒で，3.58%，8.00mm未満が１粒(試料７，No.70)であった。残余の510粒は96.23%が**小粒**の粒である。したがって，この住居跡出土の米粒は，短粒小つぶの日本型を示す粒が圧倒的に多いことを示しているが，長幅比2.00(表６—１)以上４粒中(試料７)の１粒，第12図版21に見られる形態が，長粒稲の穎果と思われるものが含まれている。他の３粒はいずれも

未熟の粒である。試料７，100粒中の１粒にすぎない。実態では，おそらくもっと少い(0.05％)混合割合を呈するものと推察されるから，混合しているかどうかもわからぬ程度のものであろう。変異幅の大きい粒長でも，その大半約70％は，4.25㎜～4.63㎜の間にある。試料１の粒長平均値9.5％，信頼限度4.45㎜≦M≦4.63㎜に対し，試料２のそれは，4.51㎜≦M≦4.63㎜であり，この両試料は極めて相互に近縁であることを示している。同様に,試料７の4.25㎜≦M≦4.37㎜である点は，さきに長粒稲の混在していたことと合わせ考えると，少なくとも粒長に関しては，前二者とは異なる粒群に属するように考えられる。

粒形の指標である長幅指数の平均値について，試料２の95％，信頼限度の1.56≦M≦1.60に対し，試料２に属する粒群にあっては，1.54≦M≦1.58，試料７のそれは，1.51≦M≦1.57である。試料１ならびに試料７は，それぞれ試料２の粒に近似しているが，試料１と試料７の関係はいささか縁遠いことを示している。このことは，表－６の粒長の組成を示す累積度数によく表現されている。

本遺跡出土の粒群の粒形にもっとも近似しているものに，加美郡中新田町城生遺跡の倉庫跡出土の炭化米粒群がある(注１)。８世紀後半から９世紀の初めにかけて，関東・北陸地域から糧穀を陸奥鎮所へ送った記載が続紀に散見され，また多賀城跡からは，運米の木簡が発見されているが，それらの記載と本遺跡出土の米群とはどういう関連をもつものであろう。

〔アワ様穎果〕

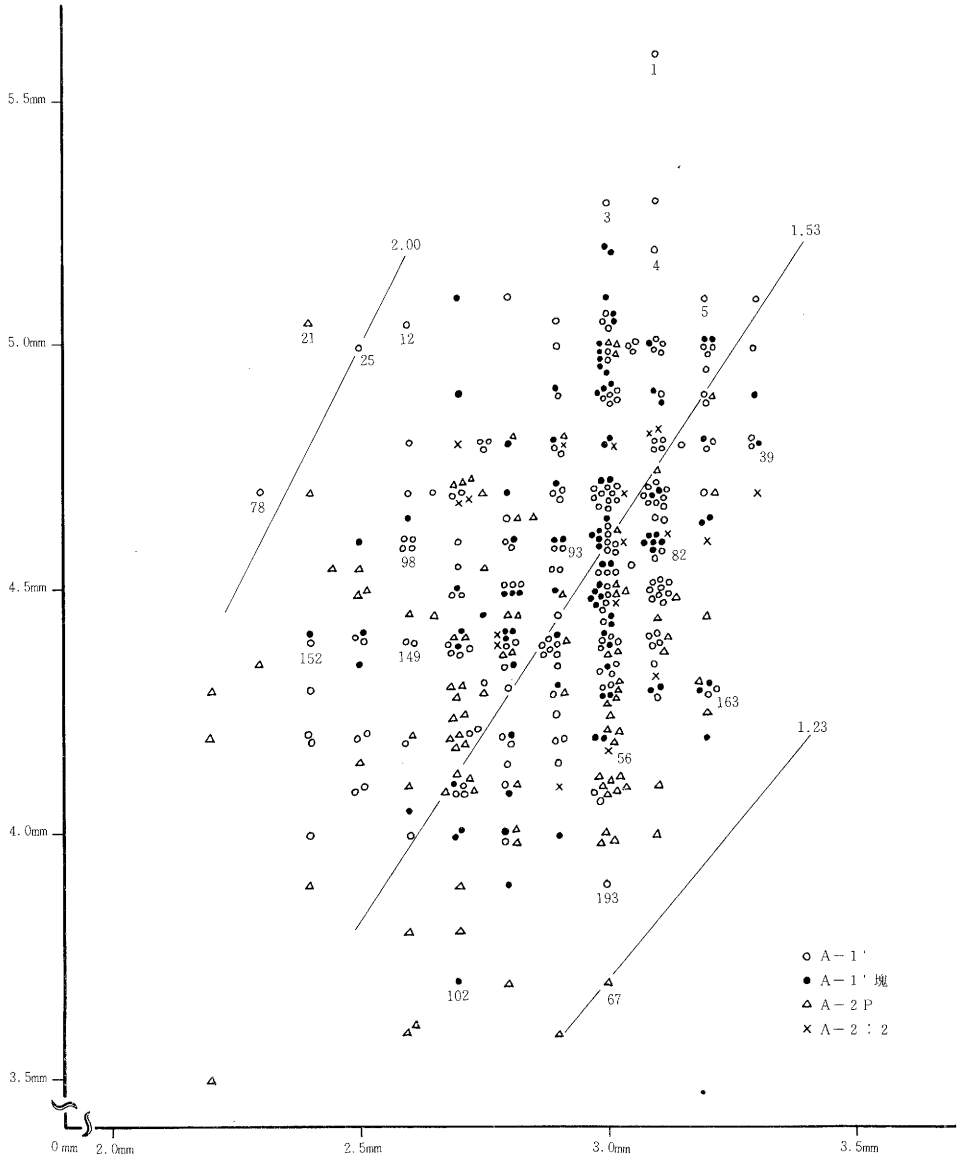
別表－９に掲げたように，粒長2.00㎜～1.30㎜，平均1.65㎜，粒幅1.80㎜～1.20㎜，平均1.51㎜で，永松土巳博士が計測された福岡・立岩遺跡出土のアワ22粒(注２)の粒長平均1.66㎜よりは短く，粒幅において，かの平均1.39㎜よりもこの方が長いが，全部焼けていること，先端および胚脱落痕が明らかでないなど，特徴がつかみにくいことから，アワと断定することをさし控えた。

〔マコモ〕

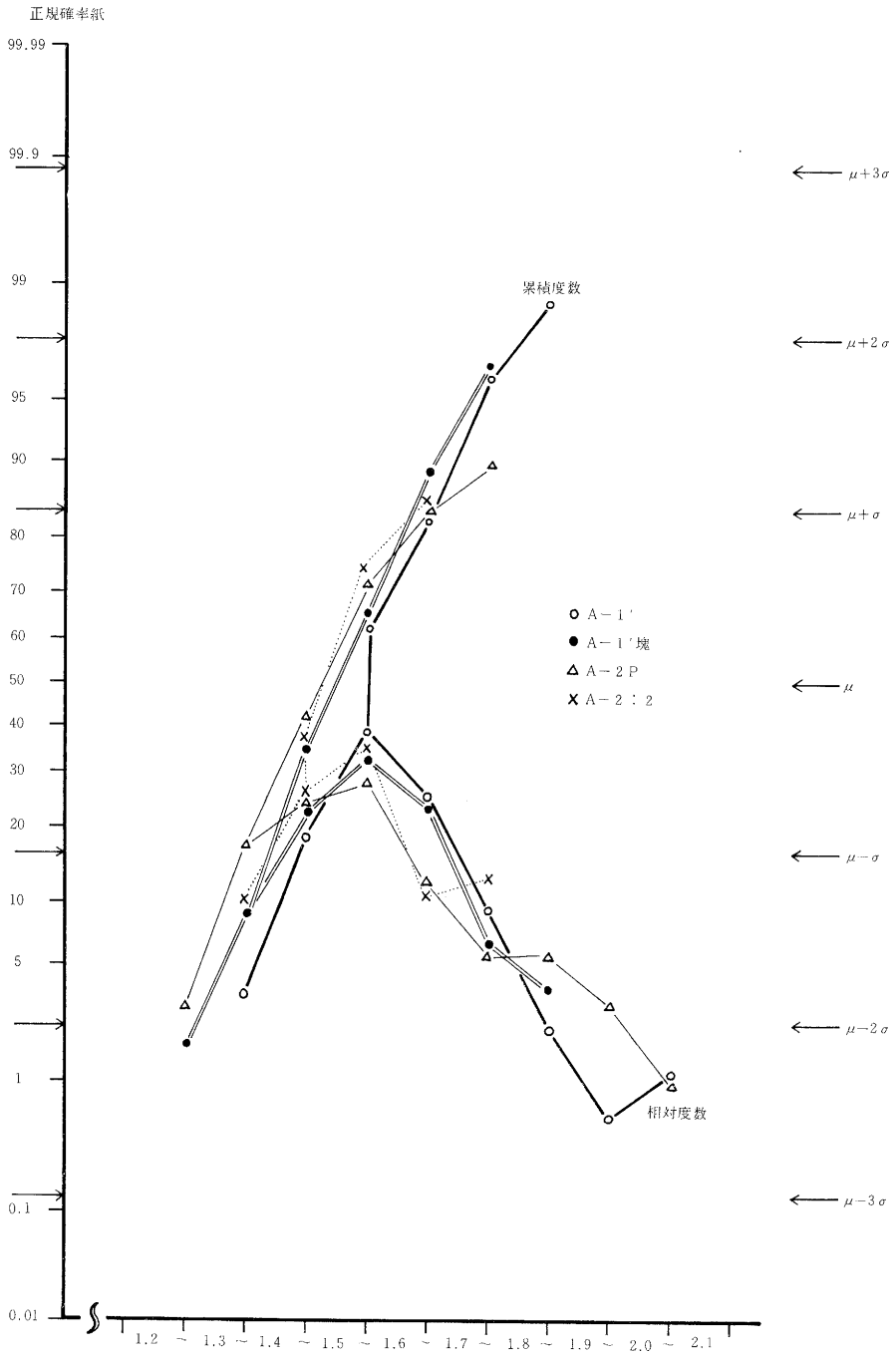
別表－10参照。全粒焼けて炭化している。80粒程であるが，１号住居跡の床面から捨い集められたものとのことである。床敷の資料の可能性もあるが，食物として貯蔵されたものとすれば，米，アワ，マコモなどの出土は，その当時の生活を理解する上で，まことに示唆にとむ資料といえよう。

注１　佐藤敏也　1979年「城生遺跡出土の焼米」『中新田町文化財調査報告書』第２集

注２　永松土巳　1977年「植物遺物」『立岩遺跡』



表－５　がんげつ遺跡出土米粒の粒長，粒幅の変異



表－6　がんげつ遺跡出土米粒の粒形（粒長/粒幅）

表 7－1　米粒の粒形と大きさ

粒形 L/B ＼ 粒大 L×B		極小 8.00mm	小 12.00mm	中 16.00mm
長粒		試料1．1 No78 試料7．1 No21 試料10．1		
短粒		試料8．1 試料1．1 No152 試料2．2 試料7．8 試料10．1	試料1．3 No7,12 試料2．2 試料7．2 試料9．1	試料1．1 No1
		試料8．7 試料1．22 No98,149 試料2．4 試料7．7 試料9．6	試料8．6 試料1．42 No3,50 試料2．28 試料7．12 試料9．5 試料10．2 試料11．5	試料8．1 試料1．2 No4
	試料7．1 No70	試料8．3 試料1．12 試料2．7 試料7．21 試料9．3 試料11．1	試料8．34 試料1．96 No 39,82 No93,143 試料2．48 試料7．29 試料9．11 試料10．8 試料11．11	試料8．1 試料1．6 No5,6 試料2．3 試料10．3
円粒		試料8．1 試料1．1 No193 試料2．3 試料7．5 No69 試料9．3	試料8．6 試料1．5 試料2．5 試料7．15 No56 試料9．10 試料10．1 試料11．1	試料9．1 試料11．1

注：ゴジックは計測粒数

表7－2　米粒の粒形と大きさ

出土地点 ＼ 粒形とその大きさ	長粒	短粒 中	短粒 小	短粒 極小	短粒 小計	円粒	合計
試料 8		2	40	11	53	7	60
					88.33	11.67	100
試料 1	2	9	141	35	185	6	193
	1.04				95.85	3.11	100
試料 2		3	78	13	94	8	102
					92.16	7.84	100
試料 7	1		43	36	79	20	100
	1.00				79.00	20.00	100
試料 9			17	9	26	14	40
					65.00	35.00	100
試料 10	1	3	10	1	14	1	16
	6.25				87.50	6.25	100
試料 11			16	1	17	2	1 19
					89.47	10.53	100
全粒	4	17	345	106	468	58	530
	0.76	3.21	65.09	20.00	88.30	10.94	100

注：上欄は計測実数，下欄は各試料毎の出土粒の相対比率

表８－１　試料１計測表

※印＝図版　　単位mm，コンマ３位以下切捨て

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備考
※1	5.60	3.10	2.30	1.80	17.36	
2	5.30	3.10	2.00	1.70	16.43	
※3	5.30	3.00	2.00	1.76	15.90	
※4	5.20	3.10	2.25	1.67	16.12	厚さへ焼けぶくれ
5	5.10	3.20	2.10	1.59	16.32	
6	5.10	3.30	2.30	1.54	16.83	厚さへ焼けぶくれ
7	5.10	2.80	2.10	1.82	14.28	
8	5.05	3.00	2.05	1.68	15.15	
9	5.05	3.00	2.20	1.68	15.15	
10	5.05	3.00	2.10	1.68	15.15	
11	5.05	2.90	2.00	1.74	14.64	
※12	5.05	2.60	1.70	1.94	13.13	
13	5.00	3.30	2.20	1.51	16.50	
14	5.00	3.10	2.20	1.61	15.50	
15	5.00	3.20	2.30	1.56	16.00	
16	5.00	3.20	2.20 (2.4)	1.56	16.00	
17	5.00	3.05	2.20 (2.5)	1.63	15.25	
18	5.00	3.10	2.10	1.61	15.50	竪割れあり
19	5.00	3.00	2.20	1.66	15.00	
20	5.00	3.10	2.30	1.61	15.50	
21	5.00	3.20	2.00	1.56	16.00	胴部下端外方へ焼けぶくれ
22	5.00	3.00	2.05	1.66	15.00	
23	5.00	3.10	2.00	1.61	155 0	
24	5.00	3.05	2.40	1.63	15.25	
25	5.00	2.50	1.90	1.00	125 0	未熟粒
26	5.00	2.90	1.80	1.72	145 0	〃
27	5.00	3.05	1.90	1.63	15.25	〃
28	4.95	3.20	2.00	1.54	15.84	竪割れ
29	4.90	3.20 (3.7)	2.00	1.53	15.68	腹部焼けぶくれ
30	4.90	3.00 (4.0)	1.90	1.63	14.70	〃
31	4.90	3.10	2.10	1.58	15.19	
32	4.90	3.20	2.00	1.53	15.68	
33	4.90	2.90	2.00	1.68	14.21	
34	4.90	3.00	1.90	1.63	14.70	
35	4.90	3.00	2.30	1.63	14.70	
36	4.90	3.00	2.30	1.63	14.70	竪胴割
37	4.90	3 00	2.10	1.63	14.70	
38	4.80	3.10 (4.0)	2.10	1.54	14.88	
※39	4.80	3.30	2.20	1.45	15.84	
40	4.80	3.20	2.20	1.50	15.36	
41	4.80	3.20	2.30 (2.9)	1.50	15.36	厚さの方向へ焼けぶくれ
42	4.80	3.15	1.90 (2.6)	1.52	15.12	〃
43	4.80	3.30	2.10	1.45	15.84	
44	4.80	3.10	2.10	1.54	14.88	胴割れ
45	4.80	2.90	2.10	1.65	13.92	
46	4.80	3.10 (3.2)	2.25	1.54	14.88	
47	4.80	3.10	2.20	1.54	14.88	
48	4.80	2.75	2.00 (2.5)	1.74	13.20	厚さの方向へ焼けぶくれ
49	4.80	2.75	2.10	1.74	13.20	〃
50	4.80	2.90	2.00	1.65	13.92	
※51	4.80	2.75	2.20	1.74	13.20	腹胴割れ
52	4.70	3.20	2.20	1.46	15.04	
53	4.70	3.10	2.10	1.51	14.57	
54	4.70	3.10	2.20	1.51	14.57	
55	4.70	3.10	2.00	1.51	14.57	
56	4.70	3.10	2.00	1.51	14.57	
57	4.70	3.10	2.10	1.51	14.57	
58	4.70	3.10 (3.4)	2.10	1.51	14.57	焼けぶくれ
59	4.70	3.10 (3.2)	2.00	1.51	14.57	〃
60	4.70	3.10	1.90	1.51	14.57	
61	4.70	3.00	2.00	1.56	14.10	
62	4.70	3.00	2.00	1.56	14.10	
63	4.70	3.00	2.00	1.56	14.10	
64	4.70	3.00	2.00	1.56	14.10	

65	4.70	3.00	2.00	1.56	14.10	
66	4.70	3.00	2.10	1.56	14.10	
67	4.70	3.00	2.10	1.56	14.10	
68	4.70	3.00	2.10	1.56	14.10	
69	4.70	3.00 (3.7)	2.10	1.56	14.10	焼けぶくれ
70	4.70	3.00 (4.2)	2.10	1.56	14.10	〃
71	4.70	2.90 (3.4)	2.00	1.62	13.63	〃
72	4.70	2.90	1.80	1.62	13.63	未熟粒
73	4.70	2.90	2.20	1.62	13.63	胴割れ
74	4.70	2.70	2.00	1.74	12.69	
75	4.70	2.70	2.00 (2.4)	1.74	12.69	厚さへ焼けぶくれ
76	4.70	3.00 (4.1)	2.05	1.77	12.45	焼けぶくれ
77	4.70	2.60	1.90	1.80	12.22	
※78	4.70	2.30	1.70	2.04	10.81	未熟粒
79	4.65	3.10	2.00	1.50	14.41	
80	4.65	2.80	1.90	1.66	13.02	
81	4.65	3.10	2.30 (2.6)	1.50	14.41	厚さへ焼けぶくれ
※82	4.60	3.10	2.10 (2.4)	1.48	14.26	〃
83	4.60	3.10	2.00 (2.7)	1.48	14.26	〃
84	4.60	2.80 (3.0)	2.20	1.53	13.80	
85	4.60	3.00	2.00	1.53	13.80	
86	4.60	3.00	2.00	1.53	13.80	
87	4.60	3.00	2.00	1.53	13.80	
88	4.60	3.00	2.00	1.53	13.80	
89	4.60	3.00	2.00	1.53	13.80	
90	4.60	3.00	2.10	1.53	13.80	
91	4.60	3.00	1.90 (2.5)	1.53	13.80	厚さへ焼けぶくれ
92	4.60	2.90	1.80	1.58	13.34	
※93	4.60	2.90	2.00	1.58	13.34	
94	4.60	2.80 (3.0)	1.70	1.64	12.88	2.80, 3.0
95	4.60	2.80	2.10	1.64	12.88	
96	4.60	2.70	1.60	1.70	12.42	未熟粒
97	4.60	2.60	1.90	1.76	11.96	〃
※98	4.60	2.60	2.20	1.76	11.96	〃
99	4.60	2.60	1.90	1.76	11.96	〃
100	4.60	2.60	1.90	1.76	11.96	〃
101	4.55	3.00 (3.3)	2.00	1.51	13.65	焼けぶくれ
102	4.55	2.70	2.30	1.68	12.28	
103	4.55	3.00	2.10	1.51	13.65	
104	4.55	2.90	2.00	1.56	13.19	
105	4.55	3.00	2.30 (3.10)	1.49	13.87	
106	4.55	3.00	2.20	1.51	13.65	
107	4.55	2.90	2.00	1.56	13.19	胴切れ米
108	4.50	3.10	2.10	1.45	13.95	
109	4.50	3.10 (3.3)	2.20 (2.4)	1.45	13.95	焼けぶくれ
110	4.50	3.10	2.20	1.45	13.95	
111	4.50	3.10	2.10	1.45	13.95	
112	4.50	3.10	2.30	1.45	13.95	
113	4.50	3.10	2.20	1.45	13.95	
114	4.50	3.10	2.10	1.45	13.95	
115	4.50	3.10	2.00	1.45	13.95	
116	4.50	3.00 (3.6)	2.20	1.50	13.50	焼けぶくれ
117	4.50	3.00	2.10 (3.4)	1.50	13.50	
118	4.50	3.00 (3.5)	2.00	1.50	13.50	
119	4.50	3.00	1.90	1.50	13.50	
120	4.50	2.80	2.00	1.60	12.60	
121	4.50	2.80	2.00 (2.5)	1.60	12.60	
122	4.50	2.80 (3.2)	2.00	1.60	12.60	
123	4.50	2.70 (3.3)	1.90	1.66	12.15	胚部焼けぶくれ
124	4.50	2.70	2.05	1.66	12.15	
125	4.50	3.10	2.00	1.45	13.95	
126	4.45	3.00	2.00	1.48	13.35	
127	4.45	2.90	2.10	1.53	12.90	
128	4.40	3.10	2.20 (2.3)	1.41	13.64	
129	4.40	3.10	2.20	1.41	13.64	
130	4.40	3.10 (3.5)	2.10	1.41	13.64	
131	4.40	3.10	2.10	1.41	14.64	
132	4.40	3.00 (3.8)	2.00	1.46	14.20	焼けぶくれ
133	4.40	3.00	1.90	1.46	13.20	
134	4.40	3.00	2.00	1.46	13.20	
135	4.40	3.00	2.00	1.46	13.20	
136	4.40	2.90 (3.8)	1.90	1.51	12.76	焼けぶくれ
137	4.40	2.90	2.00	1.51	12.76	
138	4.40	2.90 (3.4)	2.00	1.51	12.76	焼けぶくれ
139	4.40	2.90	2.10	1.51	12.76	
140	4.40	2.90	1.80	1.51	12.76	
141	4.40	2.90	2.00	1.51	12.76	
142	4.40	2.80	2.05	1.57	12.32	
※143	4.40	2.80	2.00	1.57	12.32	
144	4.40	2.70	1.90	1.62	11.88	
145	4.40	2.70	2.05	1.62	11.88	
146	4.40	2.70 (3.1)	2.00	1.62	11.88	
147	4.40	2.70	1.90	1.62	11.88	
148	4.40	2.60	2.20	1.69	11.44	
※149	4.40	2.60	2.10	1.69	11.44	
150	4.40	2.50	2.00	1.76	11.00	
151	4.40	2.50	1.90	1.76	11.00	
※152	4.40	2.40	2.00	1.83	13.56	
153	4.35	3.00	2.10	1.45	12.05	焼けぶくれ
154	4.35	2.00	1.90	1.50	13.61	〃
155	4.35	3.10	2.00	1.45	13.05	
156	4.35	3.70	2.20	1.45	13.05	
157	4.35	3.80	2.00	1.40	11.48	
158	4.35	2.70	2.00	1.61	12.74	
159	4.35	2.80	2.00	1.55	13.18	
160	4.30	3.20 (3.5)	2.10	1.34	12.76	焼けぶくれ
161	4.30	2.80 (4.0)	2.00	1.53	13.04	〃
162	4.30	3.10	2.20	1.38	13.33	焼けぶくれ
163	4.30	3.20	1.90 (2.4)	1.34	12.76	竪割れ
164	4.30	3.00	2.10	1.43	12.90	
165	4.30	3.00	2.00 (2.4)	1.43	12.90	
166	4.30	2.90	2.10 (2.4)	1.48	11.47	
167	4.30	2.70	2.10	1.56	10.82	
168	4.30	2.40	1.60	1.79	12.32	
169	4.25	2.90	2.10	1.46	11.32	焼けぶくれ
170	4.20	2.80	2.00	1.50	11.76	竪割れ
171	4.20	2.80	2.10 (2.2)	1.50	13.76	
172	4.20	2.90	2.10	1.44	10.18	
173	4.20	2.50	1.70	1.68	11.50	焼けぶくれ
174	4.20	2.70	2.00	1.55	11.34	〃
175	4.20	2.70	1.90	1.55	10.34	〃
176	4.20	2.40	2.00	1.75	10.08	
177	4.20	2.40	2.00	1.75	10.08	
178	4.20	2.50	2.00	1.68	10.50	
179	4.20	2.60	1.90	1.61	11.92	
180	4.15	2.80	2.20	1.48	12.62	焼けぶくれ
181	4.15	2.90	2.30	1.43	12.03	〃
182	4.10	3.00	2.30	1.36	12.30	〃
183	4.10	3.00	2.20	1.36	11.30	焼けて変形
184	4.10	2.70	1.80	1.51	11.07	
185	4.10	2.80	1.90	1.46	11.48	
186	4.10	2.70	2.10	1.51	11.07	
187	4.10	2.70	2.00	1.51	10.07	
188	4.10	2.50	1.80	1.64	10.25	
189	4.10	2.50	2.10	1.64	10.25	
190	4.00	2.80	2.00 (2.2)	1.42	11.20	焼けて変形
191	4.00	2.40	1.70	1.66	9.60	
192	4.00	2.60	1.70	1.53	10.40	
※193	3.90	(3.60)	2.00	1.30	11.70	焼けぶくれ
合　計	885.55	563.90	394.10	—	—	
平　均	4.58	2.92	2.04	1.56	13.37	

表８－２　試料２計測表

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備　　考
1	5.20	3.00	2.00	1.73	15.60	
2	5.20	3.00	1.90 (2.4)	1.73	15.60	厚さの方向へ焼けぶくれ
3	5.10	2.70	2.00	1.88	13.77	
4	5.10	3.00	1.80	1.70	15.30	
5	5.05	3.00	2.00	1.68	15.15	
6	5.05	3.00	2.00	1.68	15.15	
7	5.00	3.20	2.30	1.56	16.00	
8	5.00	3.10	2.00	1.61	15.50	
9	5.00	3.00	2.00	1.66	15.00	
10	5.00	3.00	2.10	1.66	15.00	
11	5.00	3.20	2.10	1.56	16.00	厚さの方向へ焼けぶくれ
12	5.00	3.00	2.10	1.66	15.00	
13	5.00	3.00	2.00	1.66	15.00	
14	4.95	3.30	2.00	1.65	14.85	
15	4.90	3.10	2.20	1.48	16.17	
16	4.90	3.10	2.10	1.58	15.19	
17	4.90	3.00	2.20	1.63	14.70	
18	4.90	3.10	2.20	1.58	15.19	
19	4.90	3.00	2.20	1.63	14.70	
20	4.90	2.90	2.00	1.68	14.21	
21	4.90	3.00	2.10	1.63	14.70	
22	4.90	2.70	1.60	1.81	13.23	未熟粒
23	4.80	3.00	2.20	1.60	14.40	
24	4.80	3.30	2.10	1.45	15.84	
25	4.80	3.20	2.10	1.50	15.36	
26	4.80	2.80	2.10	1.71	13.44	胴焼けぶくれ
27	4.80	3.00	2.20	1.60	14.40	
28	4.80	2.90	2.00	1.65	13.92	厚さの方向へ焼けぶくれ
29	4.70	3.10	2.20	1.51	14.57	〃
30	4.70	3.10	2.00	1.51	14.57	〃
31	4.70	3.00	2.00	1.56	14.10	〃
32	4.70	3.00	2.20	1.56	14.10	〃
33	4.70	2.90	1.90	1.62	13.63	
34	4.70	2.80	2.00	1.67	13.16	
35	4.65	3.20	2.20 (2.5)	1.45	14.88	厚さの方向へ焼けぶくれ
36	4.65	3.20	2.30 (3.0)	1.45	14.88	〃
37	4.65	3.00	2.00	1.55	13.95	
38	4.65	2.60	2.00	1.78	12.09	
39	4.60	3.10	2.60 (3.4)	1.48	14.26	
40	4.60	3.00 (3.4)	1.90	1.53	13.80	焼けぶくれ
41	4.60	3.00 (3.6)	2.00	1.53	13.80	〃
42	4.60	3.00	1.70	1.53	13.80	
43	4.60	3.10	2.00	1.48	14.26	
44	4.60	3.10	2.10 (2.4)	1.48	14.26	
45	4.60	3.10	2.00	1.48	14.26	
46	4.60	3.10	1.70	1.48	14.26	
47	4.60	3.10	2.10	1.48	14.26	
48	4.60	3.00	2.30 (2.7)	1.53	13.80	
49	4.60	3.00	2.10	1.53	13.80	
50	4.60	2.90	2.00	1.58	13.34	
51	4.60	2.90	2.00	1.58	13.34	
52	4.55	3.00	2.00	1.51	13.65	焼けぶくれ
53	4.55	3.00	1.80	1.51	13.65	〃
54	4.55	2.80	2.10	1.62	12.74	
55	4.55	2.50	1.70	1.82	11.37	未熟粒
56	4.50	2.90 (3.4)	2.00	1.55	13.05	
57	4.50	3.00 (3.3)	2.10	1.50	13.50	
58	4.50	4.00 (3.4)	2.00	1.50	13.50	焼けぶくれ
59	4.50	3.00 (3.2)	1.90	1.50	13.50	〃
60	4.50	2.80	2.00	1.60	12.60	〃
61	4.50	3.00 (3.1)	2.20	1.50	13.50	
62	4.50	3.00	2.00	1.50	13.50	
63	4.50	2.80	2.00	1.60	12.60	
64	4.50	2.80	2.00	1.60	12.60	
65	4.50	2.70	1.90	1.66	12.15	未熟粒
66	4.45	3.00 (3.1)	1.80	1.48	13.35	
67	4.45	3.00	1.90	1.48	13.35	
68	4.45	2.75	2.10	1.61	12.23	
69	4.40	2.70 (3.4)	2.10	1.62	11.88	焼けぶくれ
70	4.40	3.00	2.00 (2.3)	1.46	13.20	
71	4.40	3.00	1.90	1.46	13.20	
72	4.40	2.90	1.90	1.51	12.76	
73	4.40	2.80	2.00	1.57	12.32	焼けぶくれ
74	4.40	2.80	2.00	1.57	12.32	
75	4.40	2.80	2.16 (2.4)	1.57	12.32	
76	4.40	2.70	1.80	1.62	11.88	
77	4.40	2.50	2.10	1.76	11.00	
78	4.40	2.40	2.00	1.83	10.56	
79	4.35	2.80	2.00	1.55	12.18	
80	4.35	3.00	2.00 (2.4)	1.45	13.05	
81	4.35	2.50	1.90	1.74	10.87	
82	4.30	3.00 (3.4)	1.80	1.43	12.90	焼けぶくれ
83	4.30	2.90 (3.6)	2.00	1.48	12.47	〃
84	4.30	3.20 (3.4)	2.20 (2.4)	1.34	13.76	〃
85	4.30	3.20	1.90 (2.0)	1.34	13.76	
86	4.30	3.10	2.20	1.38	13.33	
87	4.30	3.00	2.00	1.43	12.90	
88	4.30	3.10	2.10	1.38	13.33	
89	4.20	3.20 (3.5)	2.20	1.31	13.44	胴部焼けぶくれ
90	4.20	2.90	2.10	1.44	12.18	
91	4.20	3.00 (3.2)	2.10	1.40	12.60	腹部焼けぶくれ
92	4.20	2.80	2.00	1.50	11.76	
93	4.20	3.00	2.10	1.40	12.60	
94	4.10	2.80	1.90	1.46	11.48	
95	4.10	2.70	1.90	1.51	11.07	側方へ焼けぶくれ
96	4.05	2.60 (2.8)	2.10	1.55	10.53	厚さへ焼けぶくれ
97	4.00	2.80 (3.1)	2.00 (2.6)	1.42	11.20	
98	4.00	2.70 (3.1)	2.10	1.48	10.80	焼けぶくれ
99	4.00	2.90	2.00	1.37	11.60	
100	4.00	2.70	1.70	1.48	10.80	
101	3.90	2.80	2.00	1.39	10.92	
102	3.70	2.70	2.00	1.37	9.99	
合　計	465.80	299.85	206.60	—	—	
平　均	4.56	2.93	2.02	1.55	13.36	

表８－３　試料８計測表

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備　　考
1	5.25	3.10	2.20	1.69	16.27	
2	5.00	3.20	2.00	1.56	16.00	
3	5.00	3.00	2.10	1.66	15.00	
4	5.00	3.00	2.10	1.66	15.00	
5	4.80	3.30	2.10	1.45	15.84	焼けぶくれ
6	4.80	3.00	2.20	1.60	14.40	〃
7	4.80	3.10	2.20	1.54	14.48	〃
8	4.70	3.10	2.20	1.51	14.57	
9	4.70	3.10	2.10	1.51	14.57	
10	4.70	3.10	2.20	1.51	14.57	
11	4.70	2.90	2.00	1.62	13.63	
12	4.70	2.90	2.10	1.62	13.63	
13	4.65	3.00	2.00	1.55	13.95	
14	4.60	3.00 (3.4)	2.20 (2.4)	1.53	13.80	
15	4.60	3.20	2.20	1.43	14.72	
16	4.60	3.10	2.00	1.48	14.26	
17	4.60	3.10	2.20	1.48	14.26	
18	4.60	3.10	2.10	1.48	14.26	
19	4.60	2.80	2.00	1.64	12.88	
20	4.60	2.90	2.00	1.58	13.34	
21	4.60	3.00	2.10	1.53	13.80	

23	4.60	2.60	2.00	1.76	11.96	腹部焼けぶくれ
24	4.50	2.90 (3.4)	2.10	1.55	13.05	腹部焼けぶくれ
25	4.50	2.90 (3.4)	2.00	1.55	13.05	
26	4.50	2.90	2.00	1.55	13.05	
27	4.50	2.90	2.10	1.55	13.05	
28	4.50	2.60	1.80	1.73	11.70	
29	4.40	3.00 (3.5)	2.20	1.46	13.20	
30	4.40	3.10	2.10	1.41	13.64	
31	4.40	2.90	2.10	1.51	12.76	
32	4.40	3.10	2.10 (2.4)	1.41	13.64	
33	4.40	3.00	2.10	1.46	13.20	
34	4.40	2.90	2.10	1.51	12.76	
35	4.40	2.90	2.05	1.51	12.76	
36	4.40	3.00	2.20	1.41	13.20	
37	4.40	3.00	2.20	1.46	13.20	
38	4.40	2.70	1.90	1.61	11.88	
39	4.40	2.40 (3.0)	2.00	1.81	10.56	
40	4.00	3.20	2.10	1.36	13.76	
41	4.30	3.10	2.20	1.36	13.33	
42	4.30	3.00	2.20	1.42	12.90	
43	4.30	2.90	2.00	1.43	12.47	
44	4.30	2.70	2.10	1.54	11.82	
45	4.30	2.90	2.10	1.46	12.47	
46	4.30	3.00	2.00	1.43	12.90	焼けぶくれ
47	4.30	2.60	2.30 (2.6)	1.68	11.18	
48	4.30	2.50	2.20	1.76	10.75	焼けぶくれ
49	4.30	3.00	2.10 (2.6)	1.48	12.90	〃
50	4.30	2.60	1.80	1.63	11.18	〃
51	4.35	3.10	2.00	1.45	13.48	
52	4.35	3.00	2.20	1.42	13.05	
53	4.20	3.10	1.90	1.33	13.02	
54	4.20	3.10	2.10	1.35	13.02	
55	4.20	3.00	2.10	1.40	12.60	
56	4.10	2.70	2.00	1.55	11.07	
57	4.00	2.90	2.00	1.35	11.60	
58	4.00	4.00	2.10	1.35	12.00	
59	4.00	4.00	2.00	1.30	12.00	
60	3.90	2.40	2.10	1.61	19.36	
60	3.80	2.50	2.00	1.57	9.50	
合　計	267.40	173.15	124.95	—	—	
平　均	4.45	2.88	2.08	1.54	12.81	

表８－４　試料７計測表

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備　　考
1	5.00	3.00	2.10	1.66	15.00	
2	5.00	3.00	2.00	1.66	15.00	
3	4.70	2.70	2.20	1.74	12.69	
4	4.50	3.10	2.00	1.45	13.95	
5	4.50	3.00	2.10	1.50	13.50	
6	4.50	3.00	2.30	1.50	13.50	
7	4.40	3.00	2.00	1.46	13.20	
8	4.40	2.90	2.10	1.51	12.76	
9	4.40	2.80	1.90	1.57	12.32	
10	4.30	2.90	2.00	1.48	12.47	
11	4.30	2.70	2.20	1.59	11.61	
12	4.30	2.70	2.10	1.59	11.61	
13	4.20	2.70	2.10	1.55	11.34	
14	4.10	3.10	2.20	1.32	12.71	
15	4.10	3.00	2.10	1.36	12.30	
16	4.10	3.00	2.10	1.36	12.30	
17	4.10	2.70	2.00	1.51	11.07	
18	4.10	2.70	2.00	1.51	11.07	
19	3.60	2.90	2.10	1.24	10.44	
20	3.60	2.60	2.00	1.38	9.36	

※21	5.05	2.40	2.10	1.10	12.1 2	厚さえ焼けぶくれ
22	5.00	3.00	1.90	1.66	15.0 0	
23	4.90	3.20	2.00	1.53	15.6 8	
24	4.80	2.80	2.10 (2.5)	1.71	13.4 4	厚さへ焼けぶくれ
25	4.80	2.90	2.10 (2.5)	1.65	13.9 2	〃
26	4.80	2.60	2.20	1.84	12.4 8	
27	4.70	3.20	2.00	1.46	15.0 4	
28	4.70	2.70	2.10	1.74	12.6 9	
29	4.70	2.70	2.00	1.74	12.6 9	
30	4.65	2.80	2.00	1.66	13.0 2	
31	4.65	2.75	2.00	1.69	13.7 8	
32	4.60	3.00	2.00	1.53	13.8 0	腹部焼けぶくれ
33	4.55	2.50	2.00	1.82	11.3 7	
34	4.55	2.45	2.00	1.85	11.1 4	
35	4.50	3.00	2.10	1.50	13.5 0	厚さへ焼けぶくれ
36	4.50	2.50	1.90	1.80	11.25	
37	4.50	2.50	2.00	1.80	11.25	
38	4.45	2.80	2.10	1.58	12.46	腹部焼けぶくれ
39	4.45	3.10	2.20	1.43	13.79	
40	4.45	2.80	2.20	1.58	12.46	厚さへ焼けぶくれ
41	4.40	3.10 (3.4)	2.10 (2.4)	1.41	13.64	
42	4.40	2.80	2.00	1.57	12.32	
43	4.40	2.70	2.00	1.62	11.88	
44	4.40	2.70	2.00	1.62	11.88	
45	4.30	3.00 (3.3)	2.20	1.43	12.90	焼けぶくれ
46	4.30	2.20	2.20	1.95	9.46	
47	4.25	3.00 (4.1)	2.20	1.41	12.75	胚部焼けぶくれ
48	4.25	3.20	2.20	1.32	13.60	
49	4.25	2.70	2.00 (2.8)	1.57	11.47	厚さへ焼けぶくれ
50	4.20	3.00	1.90	1.40	12.60	
51	4.20	3.00	2.10	1.40	12.60	
52	4.20	3.00	2.10	1.40	12.60	
53	4.20	2.70	2.00	1.55	11.34	
54	4.20	2.20	1.70	1.90	9.24	未熟粒
55	4.15	2.50	2.00	1.66	10.37	
※56	4.10	3.00	2.20	1.36	12.30	
57	4.10	2.60	2.00	1.57	10.66	
58	4.10	3.00	2.20	1.36	12.30	
59	4.10	2.70	2.05	1.51	11.07	
60	4.10	2.70	2.00 (2.5)	1.51	11.07	
61	4.00	3.00	2.10	1.33	12.00	
62	4.00	3.00	2.10 (2.7)	1.33	12.00	
63	4.00	2.80 (3.1)	2.10	1.42	11.20	焼けぶくれ
64	3.90	2.70 (3.4)	2.00	1.44	10.53	〃
65	3.90	2.40	1.90	1.62	9.36	
66	3.80	2.70 (3.1)	2.00	1.40	10.26	
67	3.70	3.00	2.00	1.23	11.10	
68	3.70	2.80	2.10 (2.6)	1.32	10.36	
※69	3.60	2.60	2.00	1.38	9.36	
※70	3.50	2.20	1.80	1.59	7.70	
71	4.75	3.10	2.10	1.53	14.72	
72	4.70	2.75	1.90	1.70	12.92	
73	4.70	2.40	2.10	1.95	11.28	
74	4.55	2.75	2.25	1.65	12.51	
75	4.50	2.90	2.00	1.55	13.05	
76	4.45	3.20 (3.6)	2.20	1.39	14.24	焼けぶくれ
77	4.45	2.60	2.10	1.71	11.57	
78	4.40	3.10	2.00	1.41	13.64	
79	4.35	2.30	1.70	1.89	10.00	
80	4.30	3.00 (3.1)	2.05	1.43	12.90	
81	4.30	3.00	2.00	1.43	12.90	
82	4.30	2.75	2.00	1.56	11.82	
83	4.30	2.70	2.10	1.59	11.61	
84	4.25	2.70	1.75	1.57	11.47	
85	4.20	2.60	2.20 (2.4)	1.61	10.92	
86	4.20	2.80 (3.2)	1.80	1.50	11.76	
87	4.10	3.00 (3.9)	2.00	1.36	12.30	
88	4.10	3.00 (3.2)	2.20 (2.4)	1.36	12.30	

89	4.00	3.10	2.10	1.29	12.40	
90	4.00	3.00	2.10	1.33	12.00	
91	4.60	3.00	2.00	1.53	13.80	
92	4.45	2.65	2.00	1.67	11.79	
93	4.40	3.00	2.00	1.46	13.20	
94	4.30	3.20	2.10	1.34	13.76	
95	4.30	3.00	2.20 (3.0)	1.43	12.90	
96	4.20	2.70	2.10	1.55	11.34	
97	4.10	3.00 (3.6)	2.10	1.36	12.30	焼けぶくれ
98	4.10	2.80	2.10	1.46	11.48	
99	4.00	2.80 (3.2)	2.10	1.42	11.20	
100	3.80	2.60 (3.3)	2.20	1.46	19.88	
合　計	430.90	281.25	205.30	1 —	9 —	
平　均	4.30	2.81	2.05	1.53	12.08	

表８－５　試料９計測表（佐々木計測）

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備　　考
1	4.10	3.20	2.40	1.28	13.12	
2	4.80	3.00	2.10	1.60	14.40	
3	4.10	2.80	1.70	1.46	11.48	
4	4.60	3.20	2.00	1.44	14.72	
5	4.80	2.60	2.20	1.46	9.88	
6	4.40	3.00	2.30	1.47	13.20	
7	4.20	2.70	2.00	1.56	11.34	
8	4.60	3.40	2.00	1.35	15.64	
9	4.20	2.50	2.20	1.68	10.50	
10	4.60	3.50	2.00	1.31	16.10	
11	4.30	3.30	2.20	1.30	14.19	
12	4.50	2.60	2.40	1.73	11.70	
13	4.30	3.20	2.20	1.34	13.76	
14	4.20	3.00	2.10	1.40	12.60	
15	4.60	2.60	2.10	1.77	11.96	
16	4.80	2.80	2.40	1.71	13.44	
17	4.30	3.10	2.00	1.39	13.33	
18	4.40	3.10	2.20	1.42	13.64	
19	4.30	3.40	2.50	1.26	14.62	
20	4.40	2.50	2.10	1.76	11.00	
合　計	87.50	59.50	44.10	—	—	
平　均	4.37	2.97	2.20	1.47	12.97	

表８－６　試料９計測表（佐々木計測）

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備　　考
1	4.50	3.10	2.10	1.45	13.9 5	
2	4.40	3.10	2.40	1.42	13.6 4	
3	4.80	3.20	2.70	1.50	15.3 6	
4	4.60	3.10	2.90	1.48	14.2 6	
5	4.10	3.10	1.80	1.65	15.8 1	
6	4.30	3.20	3.20	1.34	13.7 6	焼けぶくれ
7	4.60	3.20	2.40	1.44	14.7 2	
8	4.40	2.60	2.30	1.69	11.4 4	
9	4.50	2.80	2.30	1.61	12.6 0	
10	4.50	2.70	2.40	1.67	12.1 5	
11	4.40	3.30	2.30	1.39	14.5 2	
12	4.80	2.60	2.20	1.85	12.4 8	
13	4.90	2.80	2.40	1.39	10.9 2	
14	4.30	2.70	2.30	1.59	11.6 1	
15	4.70	3.40	2.00	1.38	15.9 8	
16	4.00	2.90	2.50	1.38	11.6 0	
17	4.50	2.90	2.10	1.55	13.0 5	
18	4.60	3.10	2.80	1.48	14.2 6	
19	4.60	2.60	2.10	1.77	11.96	
20	4.30	2.30	2.30	1.30	14.19	
合　計	89.80	59.70	47.50	—	—	
平　均	4.49	2.98	2.37	1.50	13.38	

表８－７　試料10計測表（佐々木計測）

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備　　考
1	4.40	2.40	2.10	1.83	10.56	
2	4.90	3.30	1.90	1.48	16.17	
3	4.50	3.00	2.00	1.50	13.50	
4	4.90	3.30	1.90	1.48	16.17	
5	4.40	2.90	2.30	1.52	12.76	
6	4.60	3.20	2.30	1.44	14.72	
7	4.30	3.20	2.30	1.97	20.16	
8	4.50	3.00	2.50	2.17	19.50	粒
9	4.70	3.20	3.00	1.78	18.24	
10	4.70	2.90	2.40	1.62	13.63	
11	4.80	2.90	2.30	1.66	13.92	
12	4.20	2.30	2.20	2.26	12.19	
13	4.20	3.20	2.10	1.31	13.44	
14	4.50	2.90	2.50	1.55	13.05	
15	4.90	3.40	2.10	1.44	16.66	
16	4.60	3.00	2.20	1.53	13.80	
17	4.80	3.00	2.20	1.60	14.40	
18	4.50	3.00	2.10	1.50	13.50	
19	4.50	3.00	2.10	1.50	13.50	
20	4.60	3.10	2.10	1.48	14.26	
合　計	74.30	47.90	34.40	—	—	
平　均	4.64	2.99	2.15	1.55	13.87	

注）　No7～10を除いた16粒の合計及び平均を出したものです。

表８－８　試料11計測表（佐々木計測）

No	粒長	粒幅	粒厚	粒長／粒幅	粒長×粒幅	備　　考
1	4.90	3.60	2.80	1.36	17.64	
2	4.80	3.10	1.90	1.55	14.88	
3	4.60	3.10	2.50	1.48	14.26	
4	4.60	3.20	2.30	1.44	14.72	
5	4.70	3.70	2.30	1.24	17.39	焼けぶくれ
6	4.80	2.90	2.30	1.66	13.92	
7	4.70	3.00	2.10	1.57	14.10	
8	4.20	3.00	2.80	1.40	12.60	
9	4.70	3.30	2.10	1.45	15.51	
10	4.70	2.70	2.00	1.74	12.69	
11	4.30	3.10	2.40	1.39	13.33	
12	4.80	2.70	2.10	1.78	12.96	
13	4.10	2.90	2.40	1.41	11.89	
14	4.80	3.10	3.00	1.55	14.88	
15	4.50	3.00	2.50	1.50	13.50	
16	4.40	2.80	2.10	1.57	12.32	
17	4.80	3.00	2.00	1.60	14.40	
18	4.60	3.00	2.30	1.53	13.80	
19	4.40	2.80	2.40	1.57	12.32	
20	4.70	2.70	2.20	1.74	12.69	
合　計	87.40	57.00	44.20	—	—	
平　均	4.60	3.00	2.32	1.53	13.80	

注）　No5 を除く19粒の合計及び平均を出したものです。

表９　アワ様穎果の計測表

No	粒　長	粒　幅	粒　厚	備　考
20粒平均	$m \pm s$	$m \pm s$	$m \pm s$	$m = \bar{x} + hw$
	1.65mm±0.19mm	1.51mm±0.12mm	1.18mm±0.10mm	
1　2	1.70mm	1.40mm	1.00	
2	1.40	1.50	1.00	
3	1.30	1.50	1.00	
4	1.60	1.40	1.00	
5	1.50	1.60	1.20	
6	1.70	1.50	1.00	粒厚$\bar{2}$：1.10
7	2.00	1.70	1.20	
8	1.60	1.60	1.30	
9	1.50	1.20	1.10	
10	2.00	1.80	1.00	
11	1.70	1.60	1.00	
12	1.60	1.30	1.00	
13	1.80	1.50	1.30	
14	1.90	1.50	1.20	
15	1.50	1.40	1.00	
16	1.70	1.50	1.10	
17	1.90	1.50	1.10	
18	1.40	1.50	1.00	
19	1.80	1.50	1.00	
20	1.50	1.60	1.10	
合　計	33.10 M：1.655mm	30.10 M：1.505mm	21.60 M：1.08mm	

表10　炭化マコモの計測表

No	粒　長	粒　幅	粒　厚	備　考
10粒平均	$m \pm s$	$m \pm s$	$m \pm s$	$m = \bar{x} + hw$
	4.25mm±0.32mm	1.45mm±0.14mm	1.07mm±0.11mm	
1	4.50mm	1.50mm	1.00	
2	4.20	1.50	1.30	
3	4.10	1.50	1.20	尖頭少々欠損
4	3.70	1.20	1.00	
5	4.50	1.60	1.00	粒厚$\bar{x}$：1.10
6	4.00	1.30	1.00	
7	4.00	1.40	1.00	
8	4.80	1.20	1.00	
9	4.60	1.60	1.00	先端尖り
10	4.10	1.50	1.20	
合　計	42.50mm M：4.25mm	14.30mm M：1.43mm	10.70mm M：1.07mm	

Ⅸ. ま と め

1. 今回の発掘調査によって検出された遺構としては，竪穴住居跡３棟，掘立柱建物跡１棟，小竪穴遺構２基，それに多数のピットがあげられる。

2. 今回の発掘調査によって検出された各遺構は緩斜面に位置し，そのあり方から遺跡はさらに周囲にのびることが推定される。

3. 小竪穴遺構を除く各遺構からは，多数の土師器，須恵器，鉄器，鉄滓，炭化植物遺体が出土した。

4. 小竪穴遺構を除く各遺構，及び各グリッドから出土した土師器はその製作技法，器形の点でほとんど差違が認められない。即ち，土師器坏においては底部にはロクロによる回転糸切り技法が用いられ，内面にはミガキを施した後，黒色処理が施されているものが大部分である。このような特徴を持つ土器は，表杉ノ入式(注１)に比定される。このことから，今回の調査で検出された遺構の大部分(第１号小竪穴遺構，第２号小竪穴遺構は除く)は表杉ノ入式期，平安時代に属するものと考えられる。

5. 出土した植物遺存体にはコメ，ムギ，ヒエ，マクワウリ，シソ(？)，アズキ(緑豆も含む)，アサ等の栽培植物，クリ，トチノキ，ナラ属，マコモ等の採集植物が確認された。このことによって，本地域の平安時代における植物遺体等の研究にとって貴重な資料が得られた。

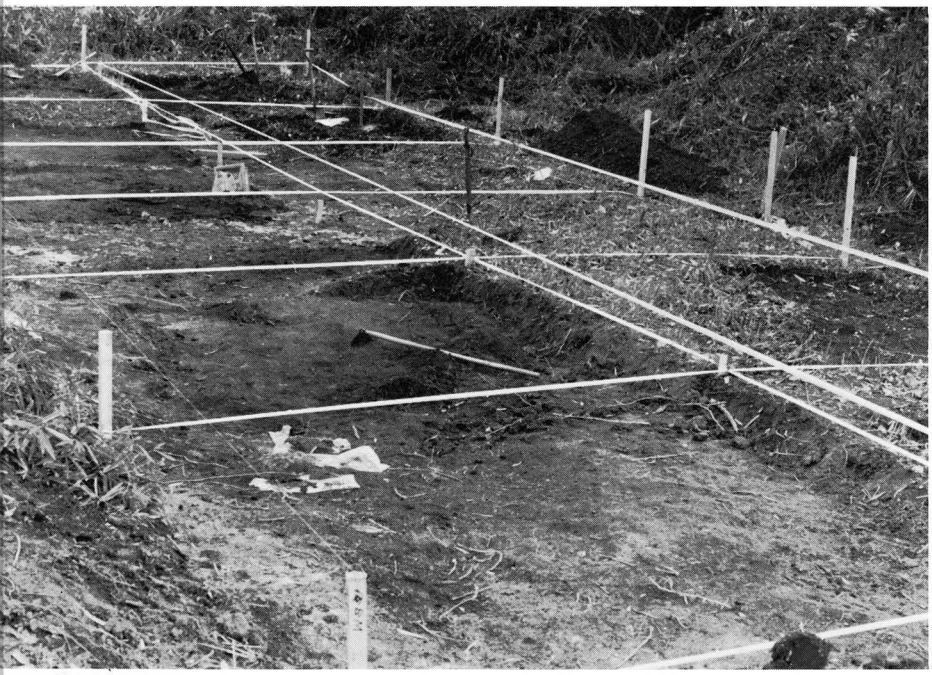
6. 今回の発掘調査地点と，前回の第１次発掘調査地点(注２)は小谷をはさんで約 200m の距離にある。両調査によって検出された遺構は出土した遺物等から，ほぼ同じ時代のものと考えられる。なお，本遺跡からは表採資料であるが，平安時代よりも古い時代の遺物も発見されている(注３)。このことから本遺跡は長期にわたって営なまれた遺跡と考えられる。

注１　加藤孝　1954年「塩釜市表杉ノ入貝塚の研究」『宮城学院女子大学研究論文集』Ⅴ

注２　瀬峰町教育委員会　1977年「がんげつ遺跡」『瀬峰町文化財調査報告書』第１集

注３　注２に同じ。

発掘前の状況

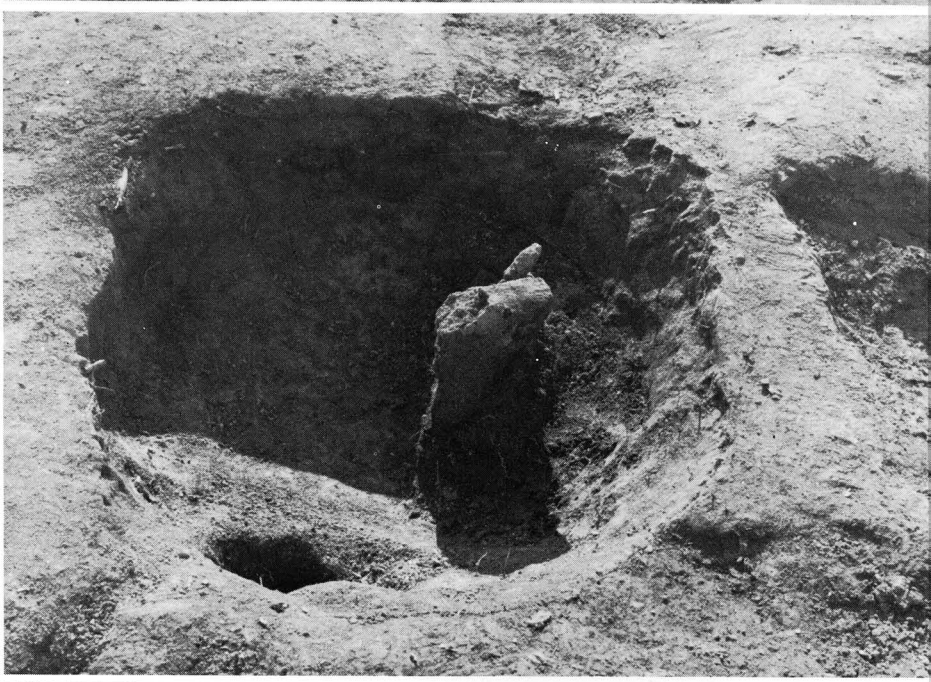


グリッドの設定

発掘後の状況

第1図版

第１号住居跡（手前）
第３号住居跡（後方）



第１号住居跡，
貯蔵穴状ピット

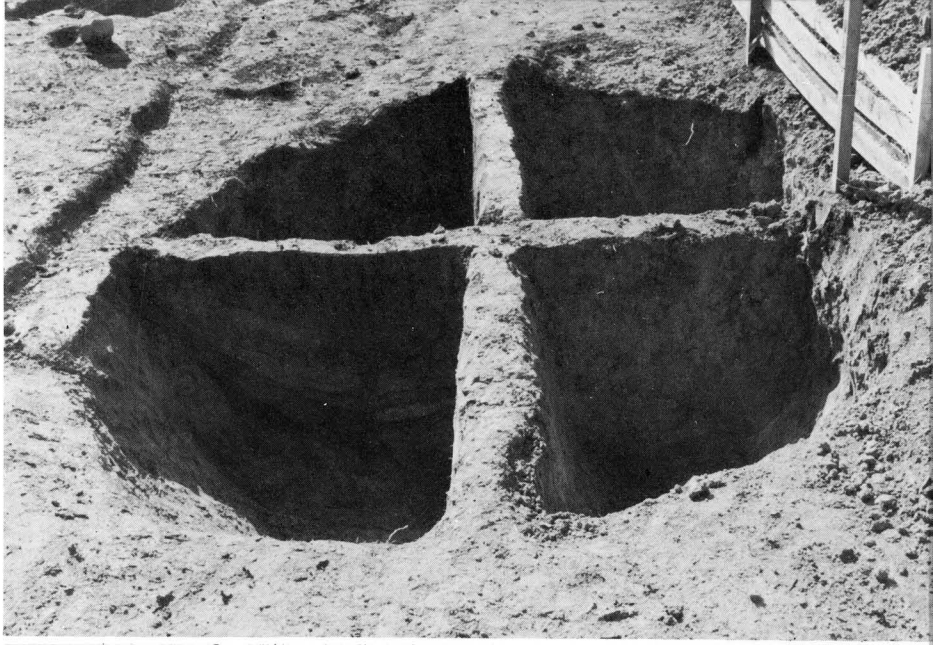
第1号住居跡遺物出土状況

第２号住居跡

第２号住居跡
カマド煙出し部

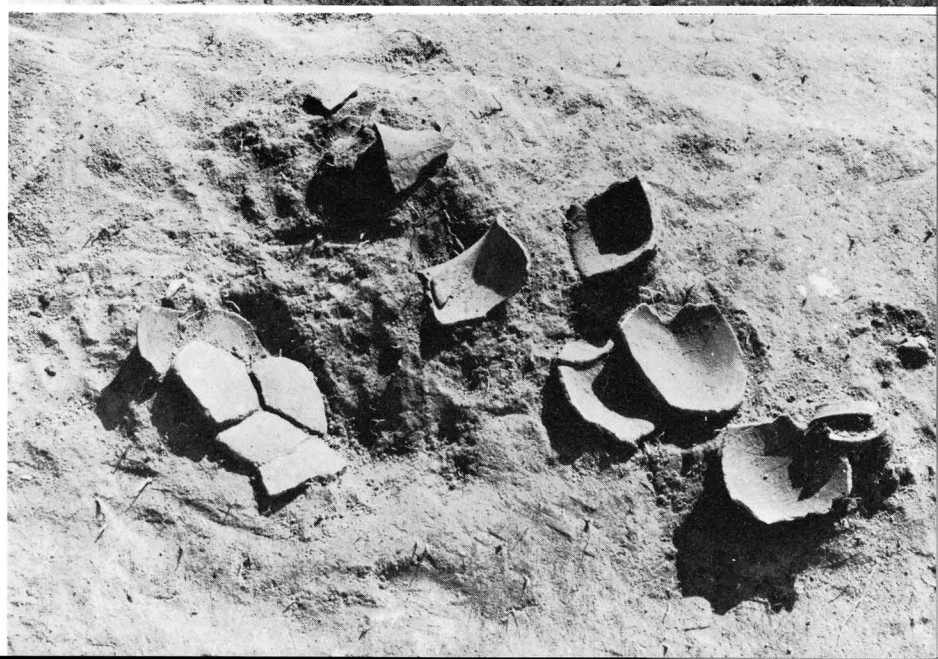
第２号住居跡堆積状況

第３図版



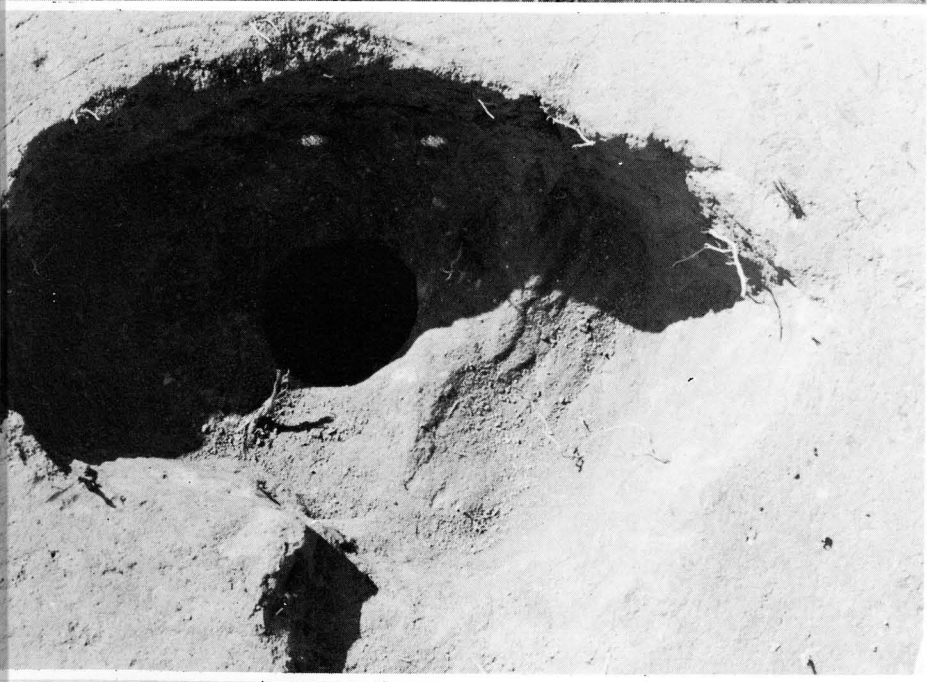
第１号小竪穴遺構

第1号小竪穴遺構堆積状況



Ａ―6グリッド遺物出土状況

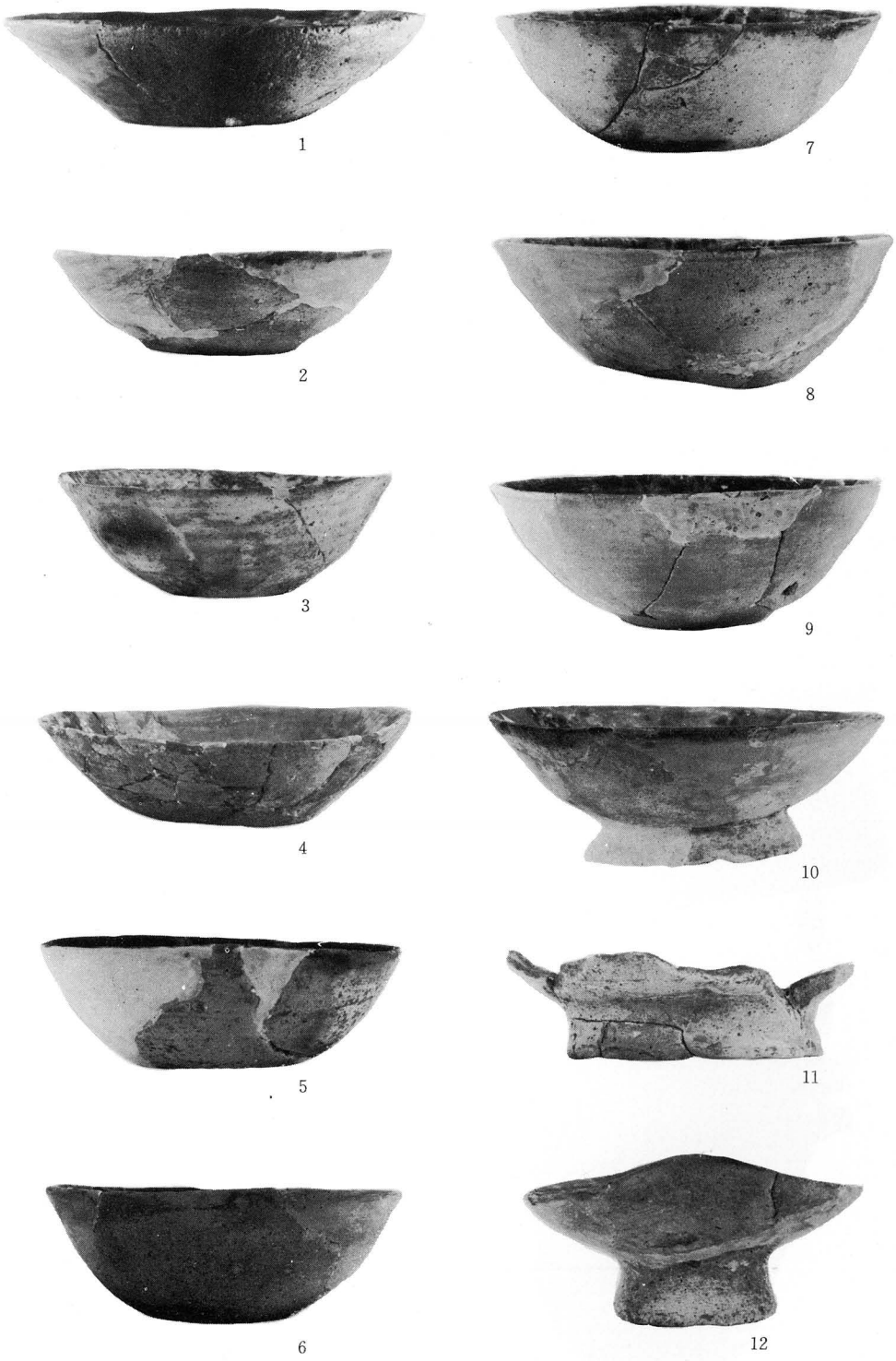
ピット7



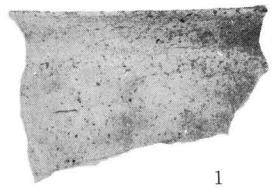
ピット11

ピット16

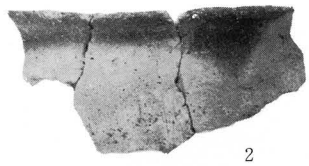
第5図版



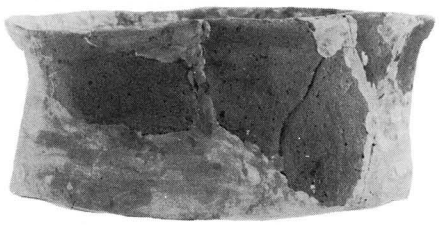
第６図版　　土　　器



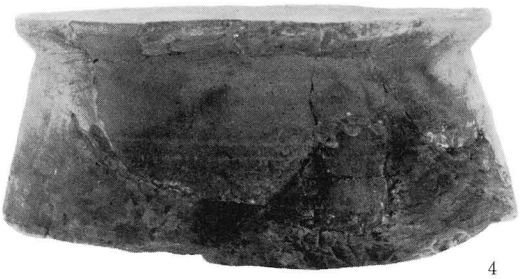
1



2



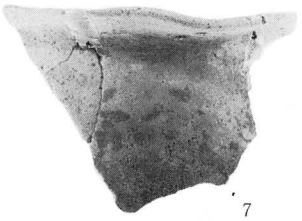
3



4

5

6



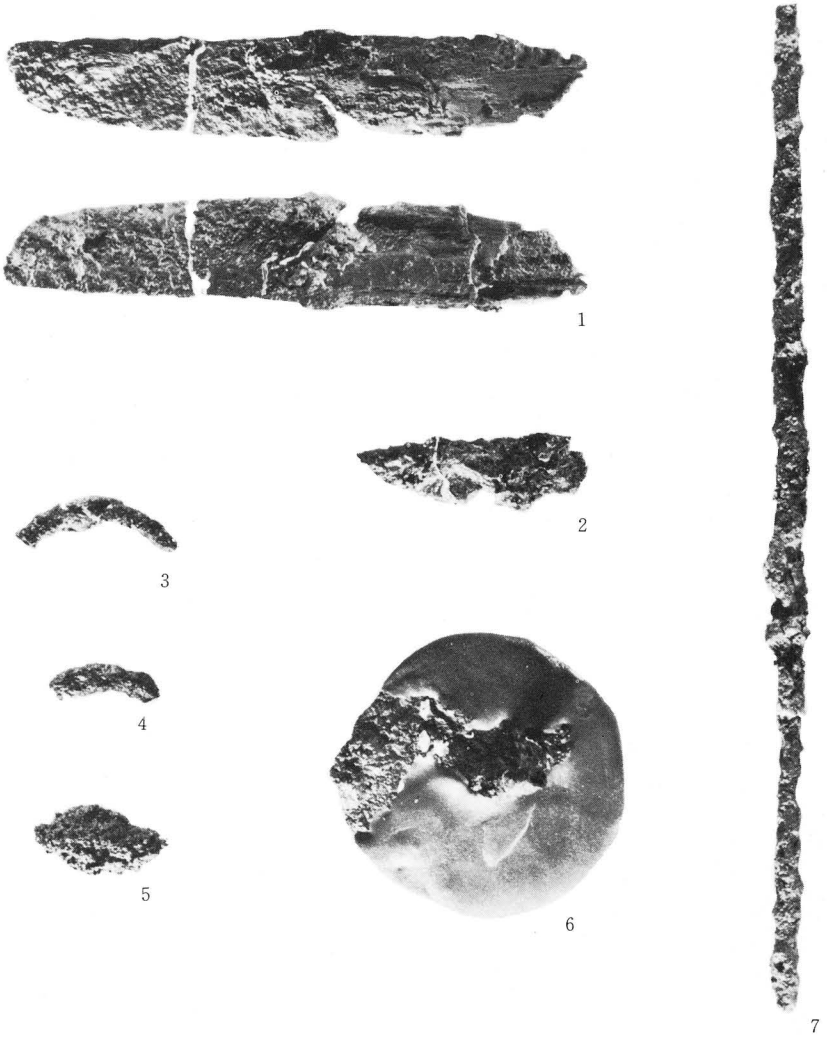
7

8

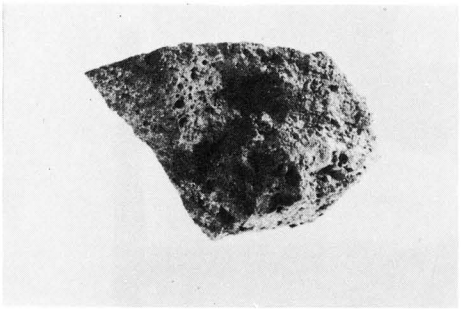
9

10

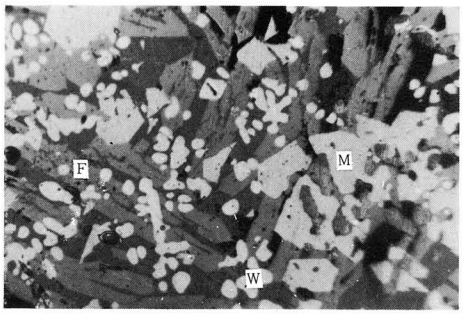
第７図版　　土　　器



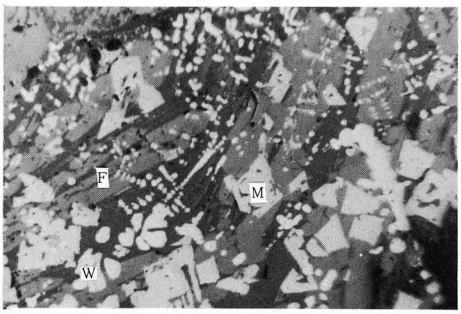
第８図版　　鉄器，鉄滓



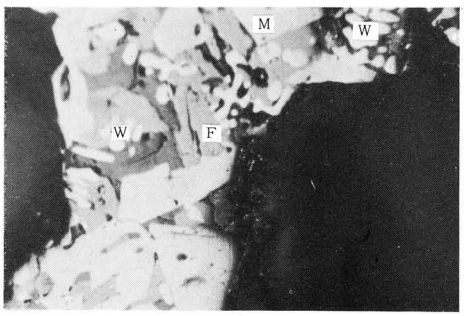
GN-1



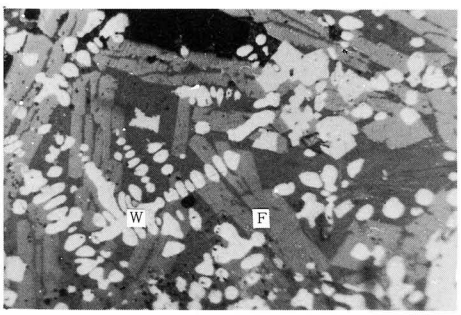
d



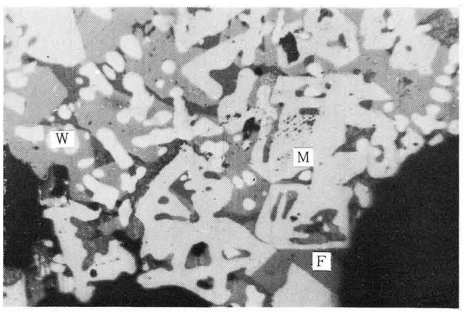
a



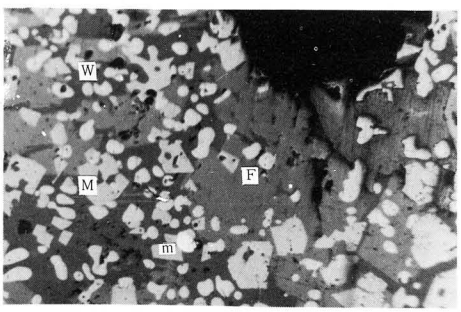
e



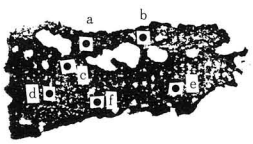
b



f



c



W : Wustite (FeO)
M : Magnetite (Fe_3O_4)
F : Fayalite ($2FeO \cdot SiO_2$)
m : Metal Fe

第９図版　　鉄滓 GN-1 の顕微鏡組織（×300）

1

資料64

広義のアズキの木炭化種子。左は臍点の部分がはずれて，大きな穴になっている。

資料73

アズキの木炭化種子。右は腹面，左は背面。

2

3

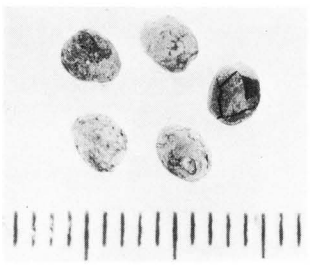
資料73

アズキの木炭化種子割れて，子葉が1枚になったもの。

資料74

アズキの木炭化種子左は完全なものを腹面よりみたもの。右は割れたもの。

4



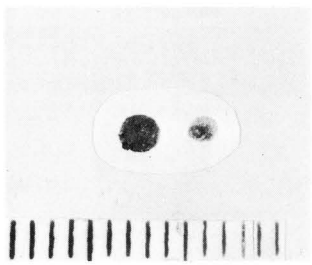
5

資料67

アサの炭化種子

資料23

シソ？　の種子。



6

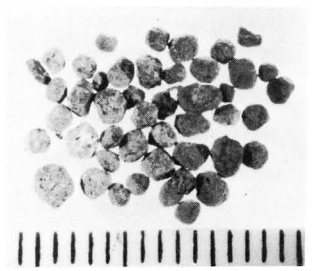
7

資料76

マクワウリの類の木炭化種子。熱のためふくらんでいる。

資料70

炭化ヒエ？



8

9

資料77

炭化ムギ類。

資料72

炭化イネ。

10

第10図版　　炭　化　物

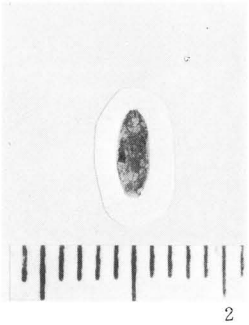
1

資料76

炭化したイネ科の種子。腹面よりみた状況。

資料76

1を背面より見た状況。



2

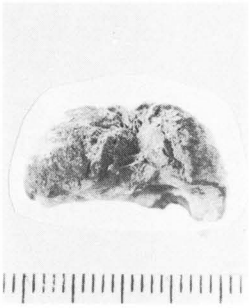
3

資料75

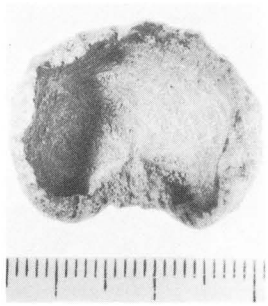
トチノキの炭化子葉。幼根のあとがあり，クリでない事がわかる。

資料75

トチノキの炭化子葉1枚。中央に幼根のあとがみえる。



4



5

資料75

トチノキの炭化子葉1枚。下部中央に幼根のあとあり。乾燥したものが焼けて木炭となったものらしい。縁がそり返っている。

資料75

5と同じものを，下から見た状況。中央に大きな幼根のあとがみえる。

6

7

資料71

クリ？　特徴があまりでていない。

資料74

落葉のナラ属（コナラ？）の1枚の炭化子葉。

8

第11図版　　炭　化　物

試料1－1

試料1－3

試料1－4

試料1－12

試料1－39

試料1－82

試料1－50

試料1－78

試料1－93

試料1－98

試料1－143

試料1－149

試料1－152

試料1－193

試料7－56

試料7－69

試料7－21

試料7－70

マ コ モ

第12図版　　炭 化 米

瀬峰町文化財関係出版物刊行目録

昭和46年　『史跡と伝承』

昭和52年　「がんげつ遺跡」

『瀬峰町文化財調査報告書』第1集

昭和54年　「長者原Ⅱ遺跡」

『瀬峰町文化財調査報告書』第2集

昭和55年　「がんげつ遺跡第2次発掘調査報告書」

『瀬峰町文化財調査報告書』第3集

昭和52年度(発掘調査実施時)

瀬峰町教育委員会

教育長	手島　正夫
教育課長	鈴木　恭和
社会教育主事	片倉　芳郎
社会教育指導員	鈴木　琢郎
事務員	門脇　照子

瀬峰町公民館

公民館長	後藤　東
公民館主事	門脇　正徳
公民館主事補	高橋　達男
用務員	菅原みさ子

昭和54年度(発掘調査報告書作成発行時)

瀬峰町教育委員会

教育長	手島　正夫
教育課長	鈴木　恭和
社会教育主事	門脇　正徳
主事	阿部　正光
社会教育指導員	笹川トミ子
事務員	門脇　照子

瀬峰町公民館

公民館長	後藤　東
公民館主事	小野寺節郎
公民館主事補	高橋　達男
用務員	菅原みさ子

瀬峰町文化財調査報告書第３集

がんげつ遺跡

第２次発掘調査報告書

昭和55年３月25日　印刷
昭和55年３月31日　発行

発行　瀬峰町教育委員会
〒989-45　宮城県栗原郡瀬峰町藤沢字下田32-1
TEL　022838-2172

印刷　株式会社東北プリント
〒980　宮城県仙台市立町24-24
TEL　0222-63-1166